Walk in home 12
新機能概要

平成２４年３月２０日

販売（株）木建市場
開発（株）ＤＴＳ

目　次

1.一目でわかるリフォーム提案 4

1-1.リフォーム指示の拡張 4
1-2 .ビフォー物件が編集できる 8

2.COREi7等の最新パソコンに対応 10

2-1_4&8CPU 対応 10
2-2.影遷移の OpenGL 対応 11

3.申請書類アシスト機能の強化[オプション] 12

3-1.申請書類の作成 12
3-2.設定ファイル 13
3-3.「マスター書込」「マスター読込」 14
3-4.作成済み申請書類の表示 15
3-5.申請書類テンプレートの登録 15
3-6.置換キーワードの表示 16

4.複雑な形状の雨どいの作成への対応 18

4-1.手動編集可能な樋の追加 18
4-2.プレゼンボード・設計図書への出力 22

5.Walk in home11 後期版からの対応 23

5-1 エクスポート 23
5-1-1.Dxf 形式 18
5-1-2._共有ファイル DTX 形式 25
5-2.見取り図の設定拡張 26
5-3. 垂木のパース表示不具合の修正 27
5-4. 金物要素の拡張 28
5-5. 仮火打の追加 32

6.その他の便利な機能 35

6-1. 注釈や補助的な要素を入力しておく「注記レイヤ」が新設 35
6-2. オプション機能 Excel To Dxf(長期優良住宅対応)の機能拡張 42
6-3. 斜線チェック・延焼範囲　平面表記を追加 43

※Walk in home シリーズは、株式会社 DTS の開発製品です。
Walk in home は、株式会社 DTS の登録商標です。
Walk in home NEXT は株式会社木建市場がマスター整備と機能追加を行い保守サービスをセットにして販売する製品の総称です。
※Microsoft Word, Microsoft Excel, Microsoft Access は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

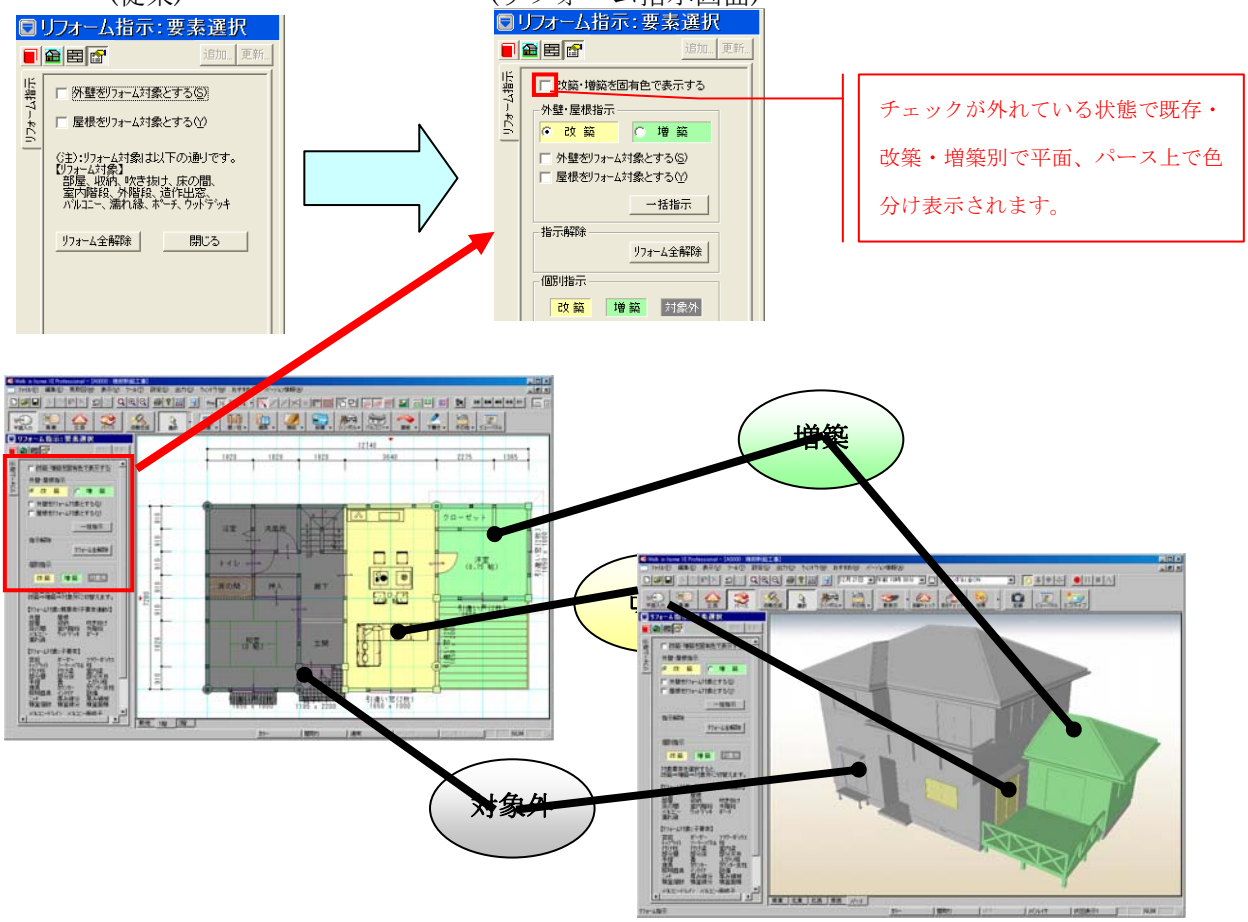
※JW-CAD はフリーの 2 次元汎用 CAD アプリケーションソフトウェアです。
プログラム、ドキュメントおよび付属ファイルの知的所有権は、
以下のとおり著作権者が有します。
Copyright (C)1997-2010 Jiro Shimizu & Yoshifumi Tanaka

1.一目でわかるリフォーム提案

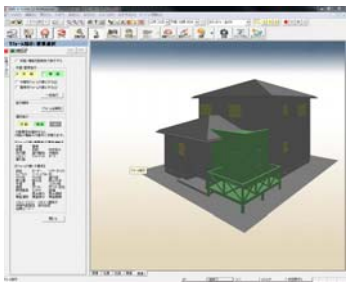
1-1.リフォーム指示の拡張

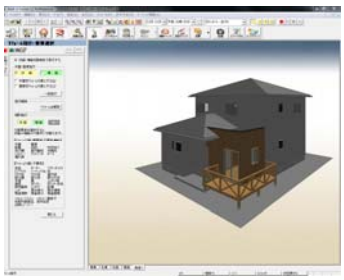
従来の空間リフォームに加え、含まれる子要素を独立して指示することが可能となりました。またリフォーム指示を増築、改築の２つに分けて指定することが出来ますのでパース、間取り入力にて３色表示で確認することが可能です。リフォーム指示中にプレゼン出力、設計図書出力を行うとリフォーム部分が識別できる画像、図面、積算数量を作成することができますが、リフォーム指示を閉じると通常のパース、図面および積算数量に戻ります。

(従来)　　(リフォーム指示画面)

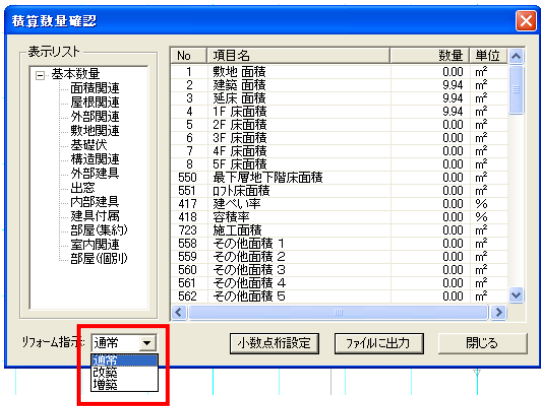


【設計図書】　　【表示：リフォーム色】　　【表示：固有色】





既存・改築・増築別ごとの積算数量を自動算出、CSV 出力できることでより正確なリフォーム積算となります。



1-1-2）リフォーム指示機能の拡張（Walk in home XI　Rel 1.10 以降からの変更）

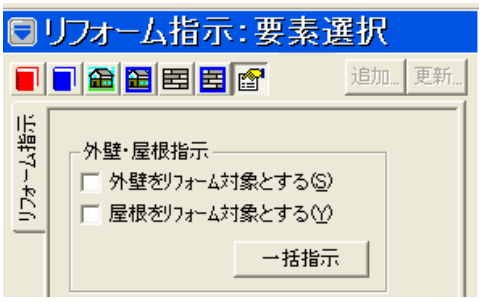
①画面表示の拡張、外壁・屋根の指示方法の変更

・拡張前

リフォーム対象外とした要素は、リフォーム指示の終了後も灰色表示が継続され、プレゼンボード出力等でも灰色で出力されておりました。
要素ごとの固有色で出力する場合は、リフォーム指示を全解除する必要がありました。

・拡張後

リフォーム指示中のみ表示色を区別するように機能を拡張致しました。
プレゼンボードなどは、リフォーム指示中状態に出力を行うと、今まで通り（灰色）で出力されます。



また、外壁・屋根の指示方法を変更致しました。
チェック状態の変更で即時に指示変更されていましたが、「一括指示」ボタンの押下で設定内容が反映されるように変更致しました。

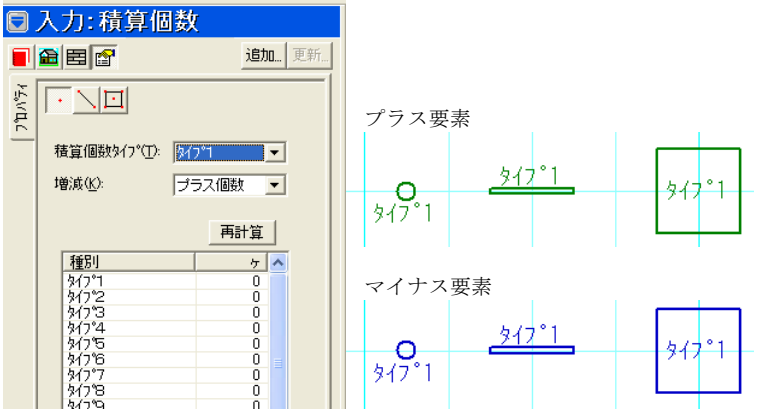
②新要素（積算要素）の追加

・拡張前

リフォームする領域を積算したい場合、面積要素を入力することで代用しておりました。

・拡張後

積算用の要素として、積算個数・積算線分・積算面積を追加致しました。
撤去や追加など、自由に用途を使い分ける要素として利用できます。



③積算数量の拡張

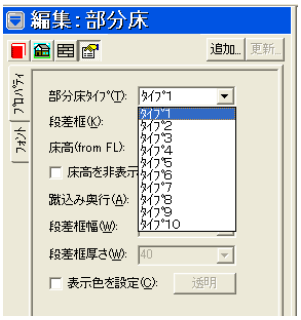
・拡張前

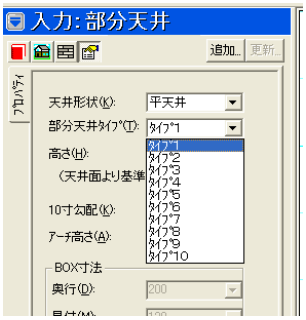
部分床及び部分天井はタイプ設定が存在せず、積算の拾いでも全て合算しておりました。

・拡張後

部分床・部分天井にタイプを追加致しました。

また、部分床・部分天井のタイプ数にあわせ、部分壁のタイプ数を 10 に拡張致しました。





④積算数量の拡張

・拡張前

積算数量確認画面の部屋(個別)では、以下の情報が部屋別積算の対象外となっておりました。

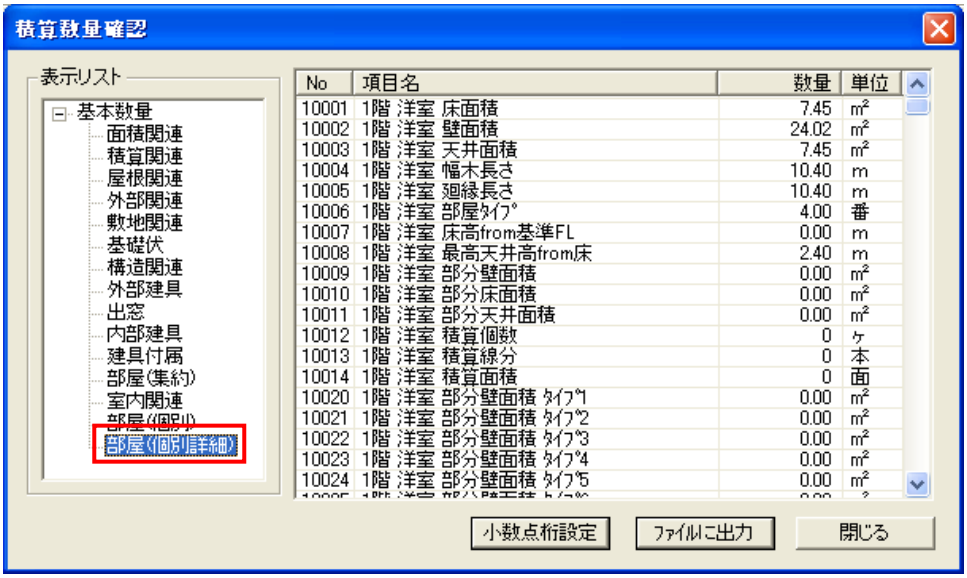
・部分壁　（タイプ別面積）

・部分床　（面積、見付面積、段差框長さ）

・部分天井（面積、見付面積、周長）

・拡張後

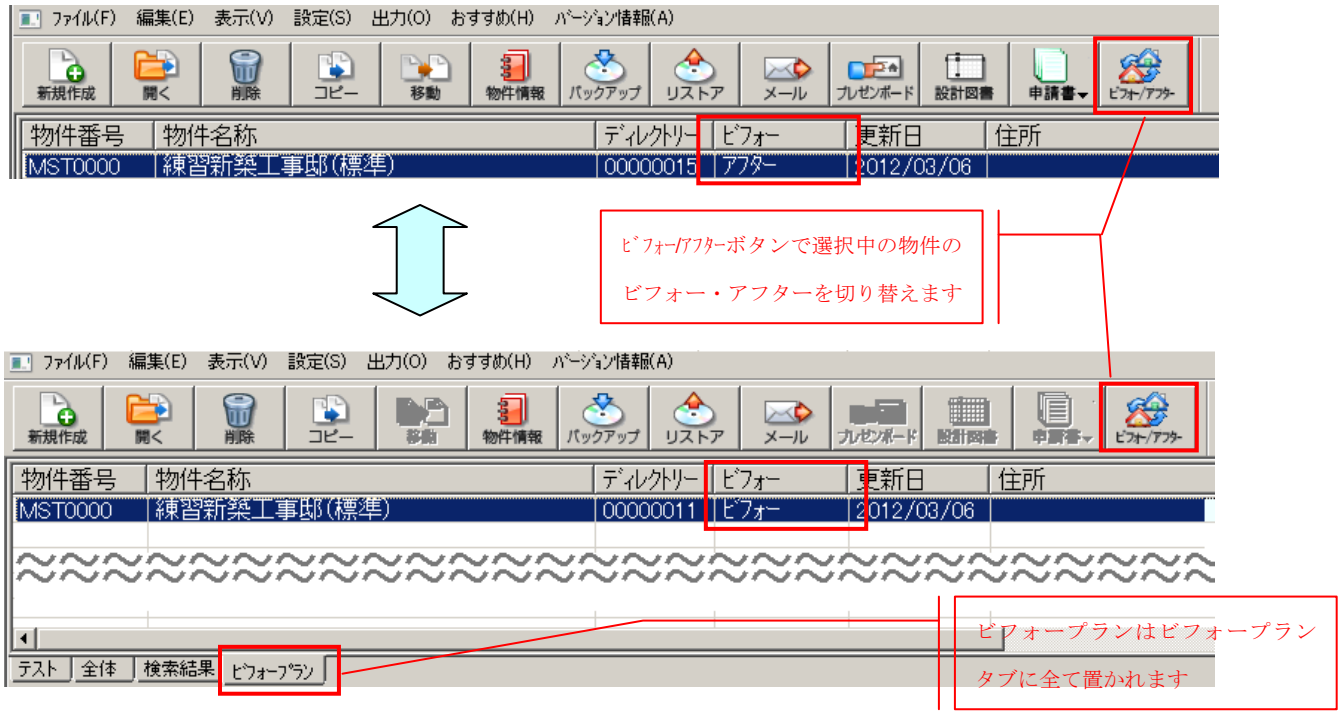
部屋(個別)の拡張版として上記項目を追加した、部屋(個別詳細)の項目を追加致しました。
より細かい積算内容が確認できるようになりました。



1-2 .ビフォー物件が編集できる

リフォーム提案に人気の、ビフォー/アフター機能ですが、今までは、ビフォーの物件は一度登録してしまうと、その後は編集ができない仕様になっていました。
今回、「後で編集が必要になる場合に対応してほしい。」という要望にお応えしました。

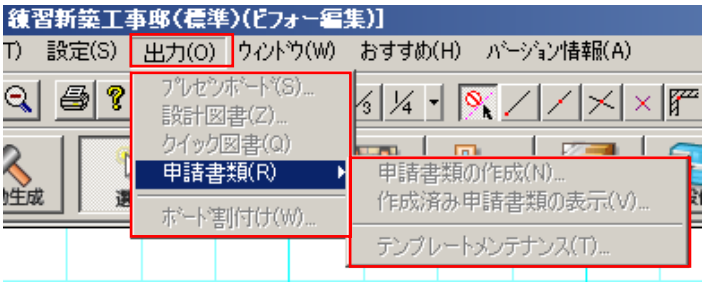
【一覧画面に切替ボタンを装備】
物件管理画面にてビフォー/アフター切り替えボタンを実装しました。
物件一覧画面で使用すると選択した物件のビフォープランの編集が可能です。



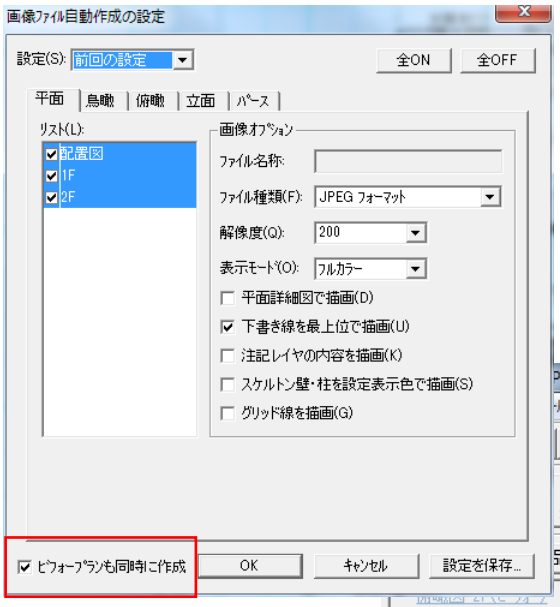
ビフォープランはビフォープランタブに集められこの中から探すことも可能です。

ビフォー編集中にはタイトルバーに(ビフォー編集)と表示されます。

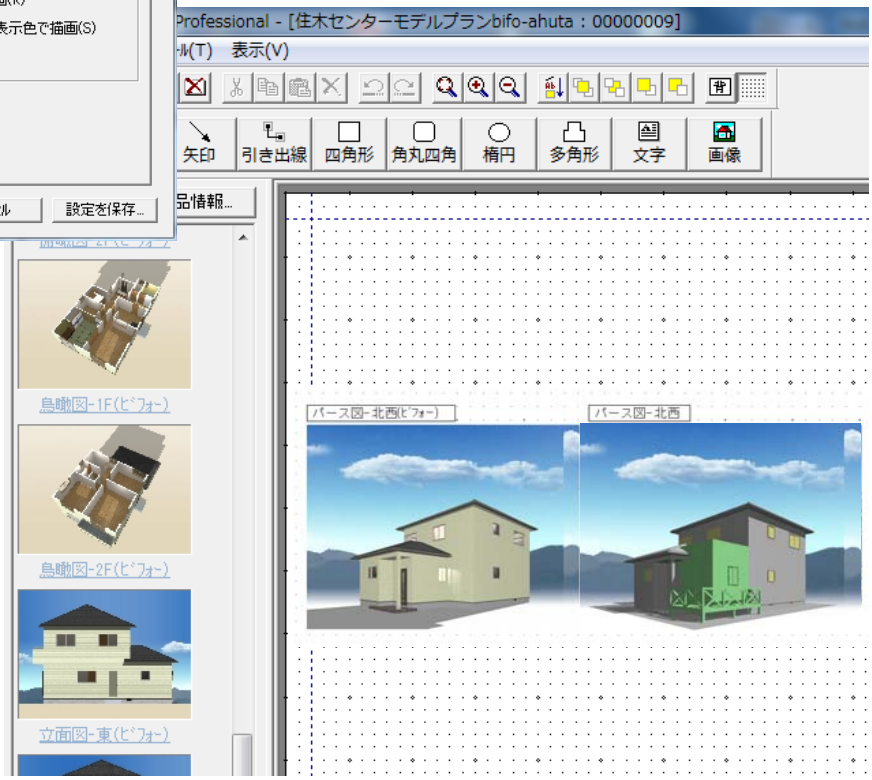
尚、ビフォー編集中には出力に関するメニューは使用できません、編集したビフォープランはアフタープランに自動的に反映され各種出力に反映します。



ビフォーの物件編集後に保存をして、アフター物件を開くと変更内容をプレゼンシートやビフォーウィンドウに反映します。



【プレゼンボード画面】



2.ＣＯＲＥｉ７等の最新パソコンに対応

2-1　4&8 スレッド CPU 対応

ＣＧ作成で時間がかかる、レンダリング（影表示）作業が快適になります。

影表示をマルチコア対応としました、従来の最大２スレッドから最大８スレッドに引き上げる事により、マルチコア CPU の性能を全て引き出して使う事が可能です、大量のシンボル、大量の光源を入れた場合でもマルチコア CPU 搭載マシンを使用すれば短時間でレンダリングが可能となります。

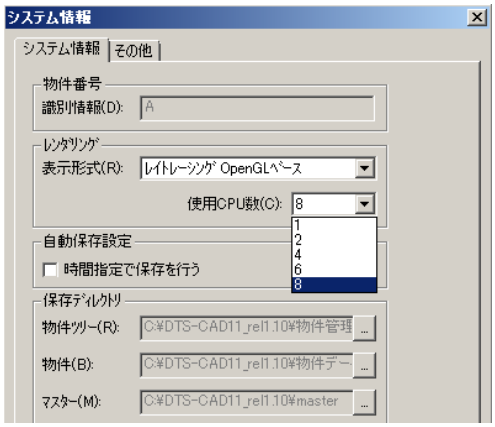
また、Walk in home の影表示時に他の作業も並行で行いたい方の為に使用 CPU 数を制限できます、8CPU 搭載パソコンの場合、Walk in home では 4CPU だけを使用するような設定にすれば、Walk in home 以外の作業もストレスなく実施することが可能です。

※システム情報のレンダリング-使用 CPU 数から設定します(正しくはスレッド数を指定)

Core i7・870 と Core i5・750			
CPU名前	Core i7・870	Core i5・750	備考
コア数	4	4	すべて４コアのクアッドコアCPU
スレッド数	8	4	ハイパースレッディング機能を搭載しているCorei7のみ擬似的に8コア動作する

※PC の CPU のスレッド数より多い数を設定した場合は PC のスレッド数にて処理が行われます。

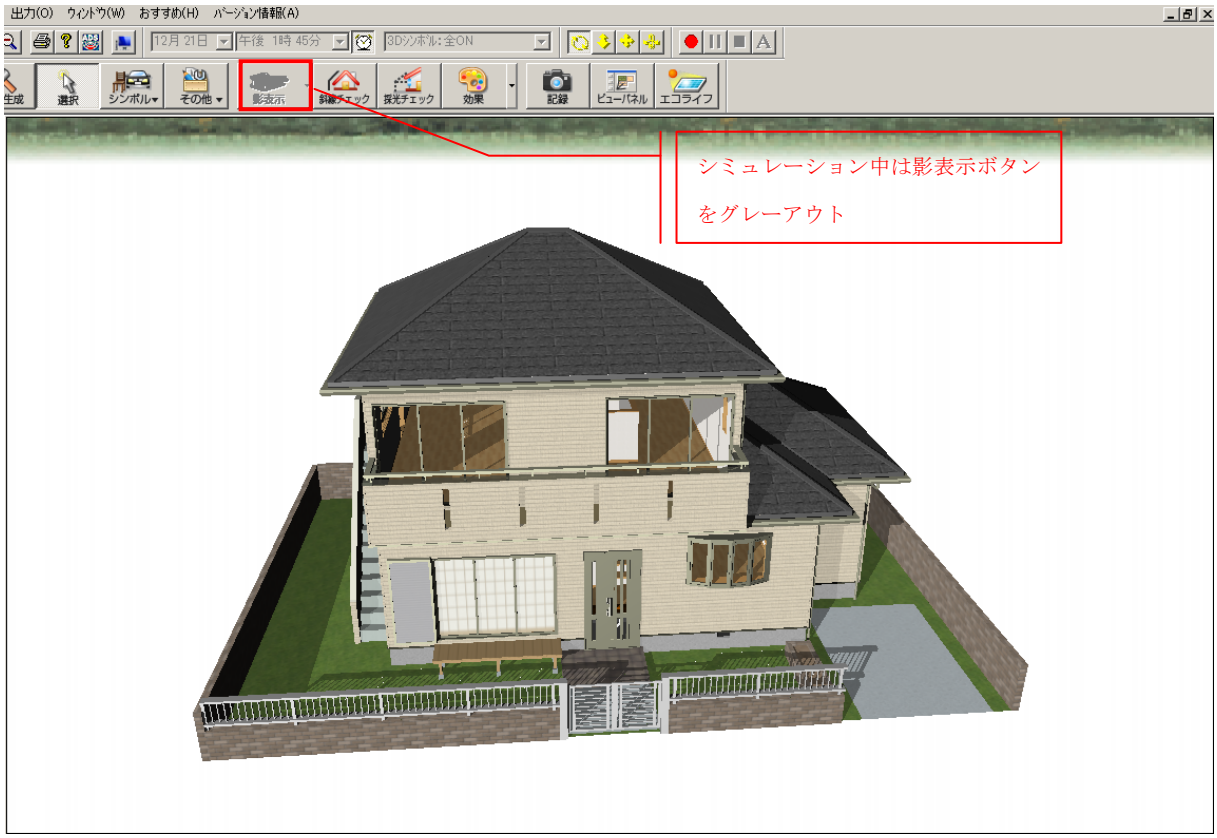
(※8 スレッド使用時のレンダリング処理イメージ図)



2-2.影遷移の OpenGL 対応

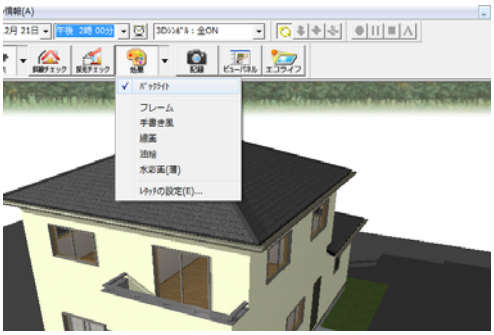
シンボルの ON／OFF 連動に加え影表示をしていない状態からも実行できます。
シンボルを大量に入れた物件では事前の影表示自体に時間がかかり、お客様をお待たせしていました、本改良で影表示なしから影遷移できるようになりました。

それでも影計算自体が重い処理ですので、シンボルが大量に入っている物件では影遷移をスムーズにお見せする事ができません、その場合は影遷移時にシンボル表示を OFF にして頂ければ日陰の連続シミュレーションをスムーズにお見せ頂けます。



★上手に見せるポイント（日当たりシミュレーションを効果的に見せるために）

１：影が表示されるのは、敷地レイヤーに要素が入っている場所になります。敷地以外の隣地なども入力されているとより効果的です。



２：影が表示が強すぎる時は、「バックライト」を利用すると、表示が明るくなります。

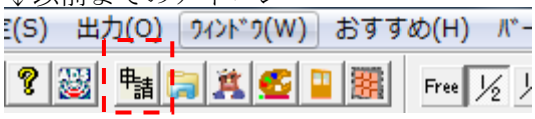
3.申請書類アシスト機能の強化[オプション]

Walk in home で入力した物件情報や面積情報を、任意のエクセル、ワード書式に一括反映することができます。確認申請書類や長期優良住宅申請書類の作成に便利です。

※オプション機能 Excel To Dxf（長期優良住宅対応）が必要です。

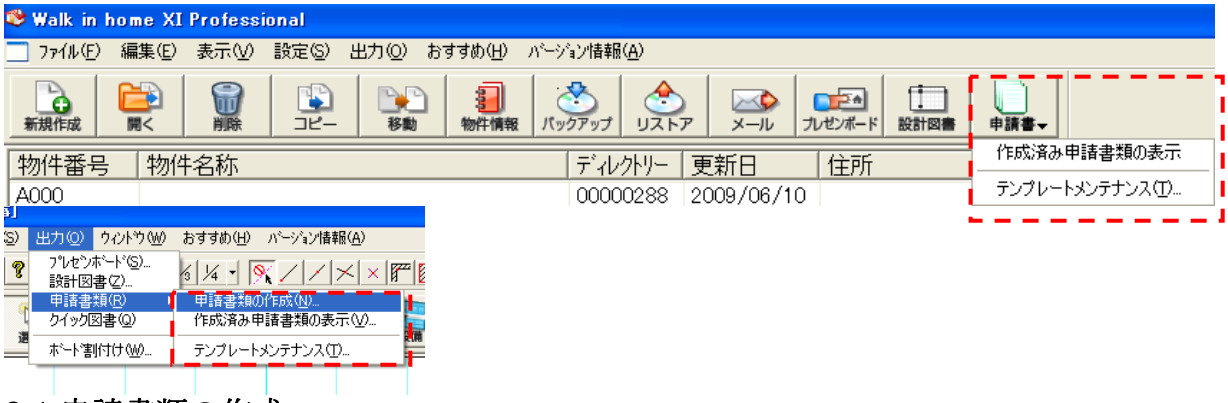
※使用するエクセル、ワードファイルに読み取り専用やシートの保護を設定しないで下さい。

↓以前までのアイコン



申請図書作成の作成をするが、Walk in home との連動なし。

↓今後のアイコン

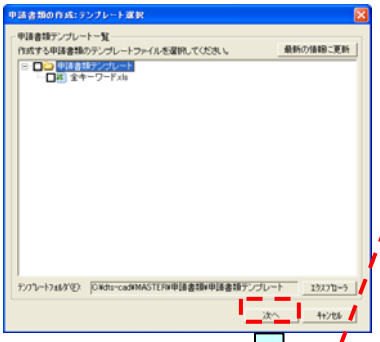


3-1.申請書類の作成

作成する申請書類のテンプレートを選択します。

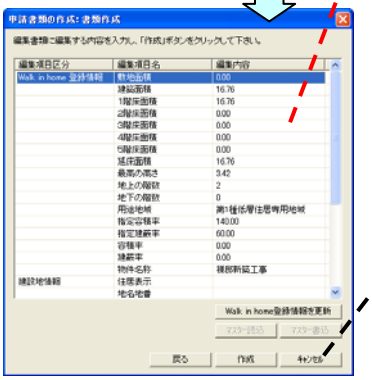
同時に複数の申請書類を一括で作成する事が可能です

※申請書類テンプレート、作成済み申請書類ファイルを開きながら作業をしないでください。



「テンプレート選択画面」で選択した
テンプレートファイルに含まれるキーワードの
所属区分、項目名、編集内容欄を
リストビューで表示します

※稀にワード・エクセル側でランタイムエラーとなる場合があります。この場合は最出力して下さい。



「Walk in home 登録情報を更新」ボタン：
既に登録されている情報を、初期値として
編集内容欄に自動表示します

「作成」ボタン：
編集内容用欄に表示されている値で
書類の自動生成を行ないます

「戻る」ボタン：
前画面　（テンプレート選択画面）　に戻ります

「閉じる」ボタン：本画面を閉じます

3-2.設定ファイル

区分名称および、区分内の編集項目は設定ファイルにて管理します。

設定ファイルを変更する事により、ユーザー様ご自身にて区分名称の変更・区分の追加・編集項目の追加／変更を可能とします MASTER¥申請書類にある、以下のファイルにて管理します。

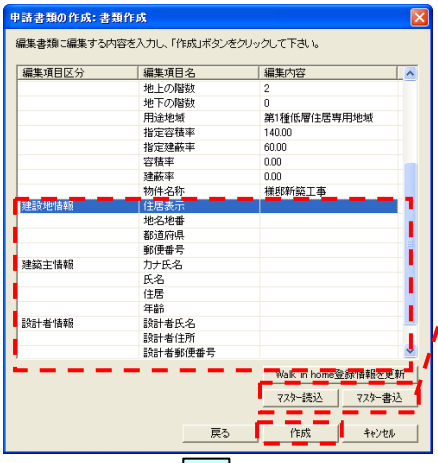
- 建物共通情報設定ファイル(編集不可).csv
- その他情報設定ファイル.csv

	A	B	C	D	E
1	区分(タブ名)	編集項目名	編集キーワード	初期値	マスター保存項目(0:対象外、1:対象)
2	Walk in home 登録情報	敷地面積	建物情報敷地面積		0
3	Walk in home 登録情報	建築面積	建物情報建築面積		0
4	Walk in home 登録情報	1階床面積	建物情報1階床面積		0
5	Walk in home 登録情報	2階床面積	建物情報2階床面積		0
6	Walk in home 登録情報	3階床面積	建物情報3階床面積		0
7	Walk in home 登録情報	4階床面積	建物情報4階床面積		0
8	Walk in home 登録情報	5階床面積	建物情報5階床面積		0
9	Walk in home 登録情報	延床面積	建物情報延床面積		0
10	Walk in home 登録情報	最高の高さ	建物情報最高の高さ		0
11	Walk in home 登録情報	地上の階数	建物情報地上の階数		0
12	Walk in home 登録情報	地下の階数	建物情報地下の階数		0
13	Walk in home 登録情報	用途地域	建物情報用途地域		0
14	Walk in home 登録情報	指定容積率	建物情報指定容積率		0
15	Walk in home 登録情報	指定建蔽率	建物情報指定建蔽率		0
16	Walk in home 登録情報	容積率	建物情報容積率		0
17	Walk in home 登録情報	建蔽率	建物情報建蔽率		0
18	Walk in home 登録情報	物件名称	建物情報物件名称		0

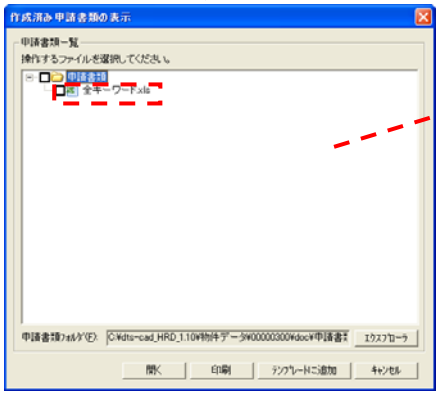
	A	B	C	D	E
1	区分(タブ名)	編集項目名	編集キーワード	初期値	マスター保存項目(0:対象外、1:対象)
2	建設地情報	地名地番	建設地地名地番		1
3	建設地情報	住居表示	建設地住居表示		1
4	建設地情報	郵便番号	建設地郵便番号		1
5	建設地情報	都道府県	建設地都道府県		1
6	建築主情報	氏名	建築主氏名		1
7	建築主情報	カナ氏名	建築主カナ氏名		1
8	建築主情報	住居	建築主住居		1
9	建築主情報	年齢	建築主年齢		1
10	設計者情報	設計者氏名	設計者氏名		1
11	設計者情報	設計者郵便番号	設計者郵便番号		1
12	設計者情報	設計者住所	設計者住所		1
13	設計者情報	電話番号	電話番号		1

【区分】
編集項目の区分名称。
【編集項目名】
編集項目の名称。
【編集キーワード】
申請書類テンプレートに定義するキーワード。
申請書作成時に本キーワードが定義されている位置に、編集内容を埋め込む。
【初期値】
編集内容欄に初期値を表示したい場合、内容を定義。
【マスター保存項目】
画面に入力した内容をマスターに保存するか否かの定義。

3-3.「マスター書込」「マスター読込」

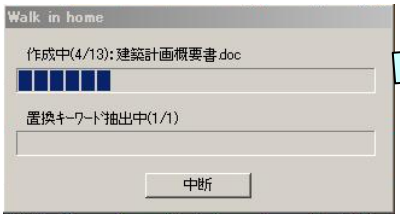


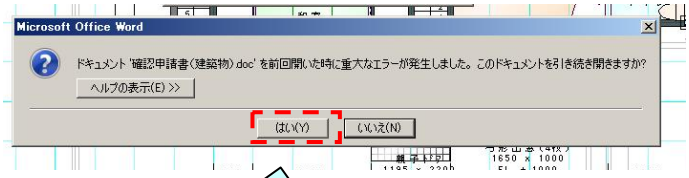
【マスター書込】
ファイル保存ダイアログを開き、ファイル名を入力、または保存ファイルを選択し、「OK」ボタンを押すと、選択されている区分の入力内容をマスターとして保存する。
【マスター読込】
ファイル選択ダイアログを開き、読み込もうとするファイルを選択し、「OK」ボタンを押すと選択されている区分の入力内容をマスターから読み込む。

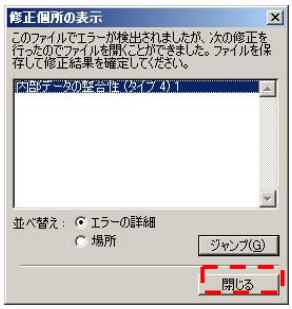


全ての処理が完了後に、
「作成済み申請書類の表示 」の
「申請書類一覧」画面を表示する

※注意事項







※エクセルファイルでエラーが表示された場合
ドキュメントを開くウィンドウで「はい」
修正箇所の表示で「閉じる」
を選択していただければ、処理が再開されます。

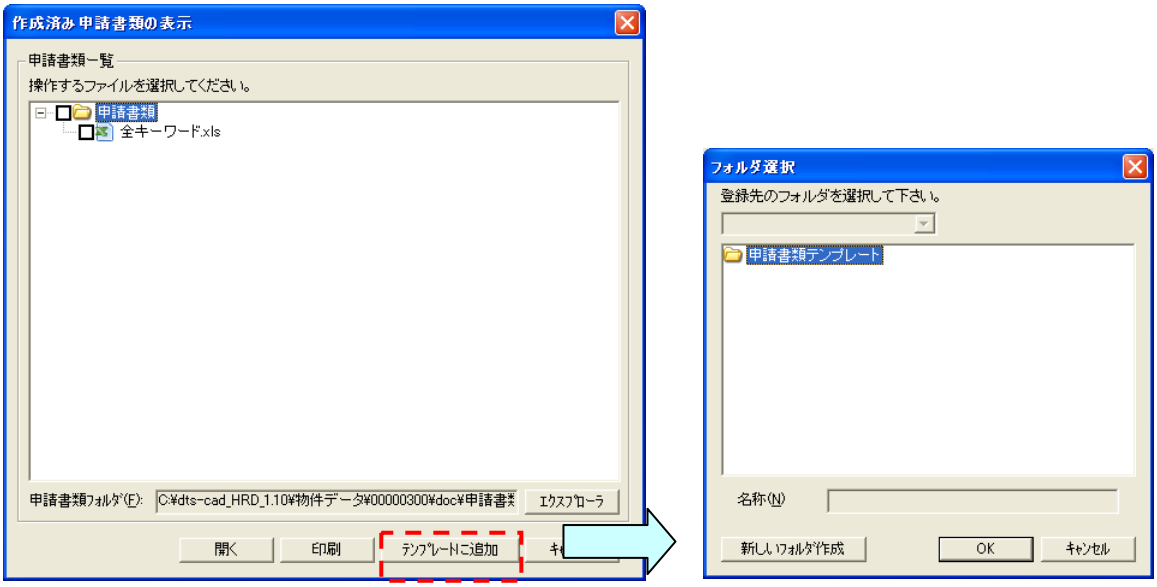
※既に作成済みのエクセル・ワードファイルを開きながらの作業をしないでください。

3-4.作成済み申請書類の表示

ファイルをダブルクリック、または右クリック ⇒ 「開く」 により、各ファイルに応じたエディタでファイルを開く。作成された書類に対し修正を行ないます。

加筆・修正が行われたファイルを再度テンプレートとして使用する場合、

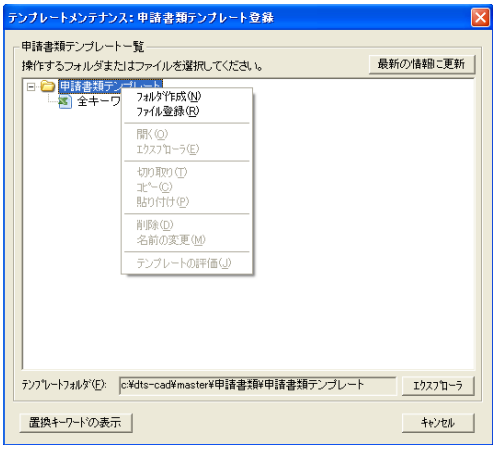
該当のファイルまたはフォルダをチェックし､「テンプレートに追加」 ボタンをクリックします。



3-5.申請書類テンプレートの登録

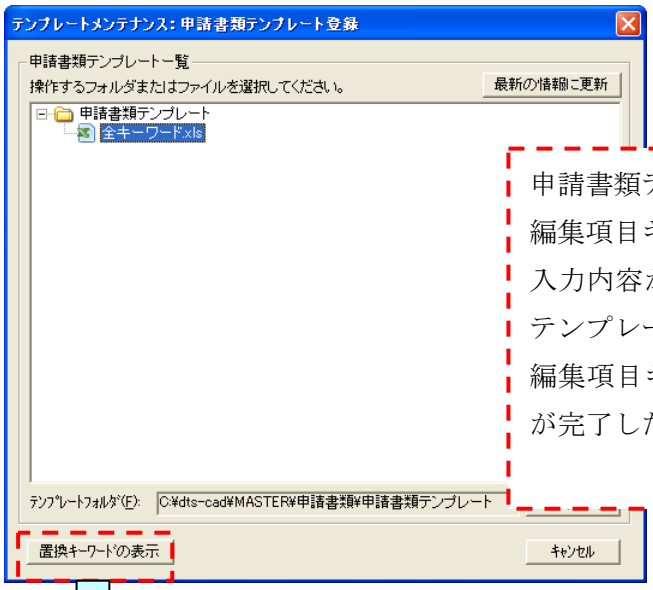
申請書類メニューの 「テンプレートメンテナンス」 メニューを選択時に、「申請書類テンプレート登録」画面を表示します。テンプレートを格納するフォルダを選択し、右クリック → 「ファイル登録」 により、格納するファイルを選択します。

テンプレートを格納するフォルダを新たに作成する場合、右クリック → 「フォルダ作成」 にて行ないます。

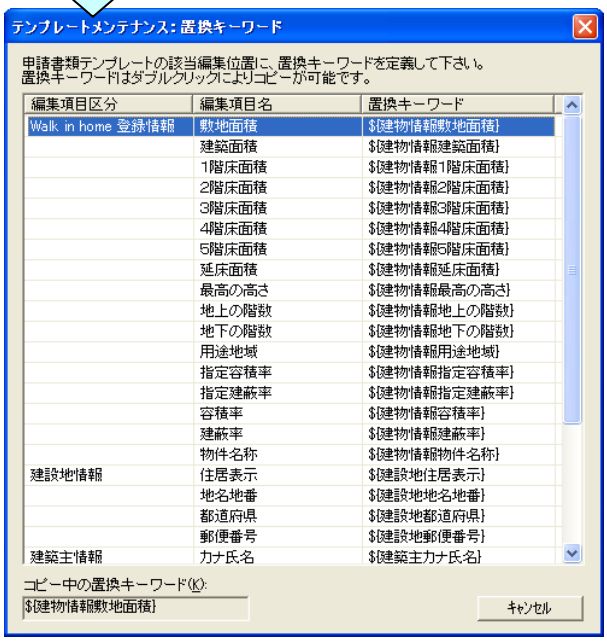


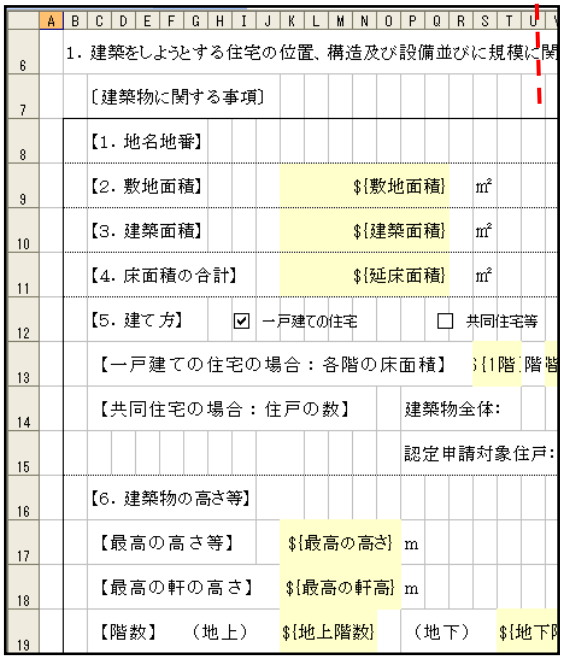
3-6.置換キーワードの表示

追加されたテンプレートをダブルクリックし、Excel または Word で開き、「置換キーワードの表示」 ボタンをクリックします。

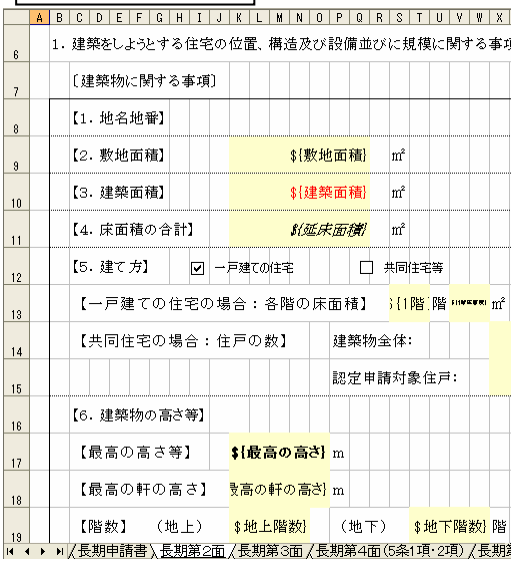


申請書類テンプレートの該当位置に
編集項目キーワードを定義します。
入力内容が固定値となる項目やチェック等は予め
テンプレートに固定値を入力しておきます。
編集項目キーワードの定義、および固定値の入力
が完了したらファイルを上書き保存します。

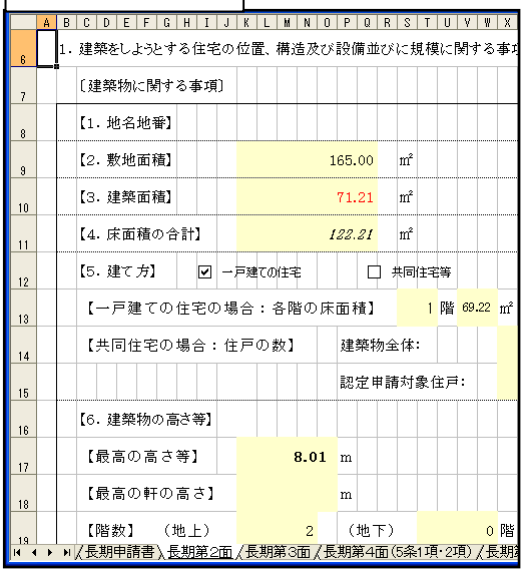




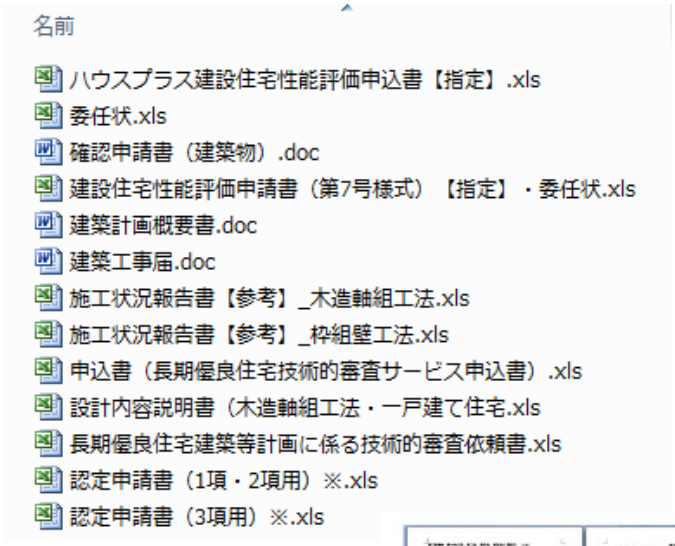
テンプレート

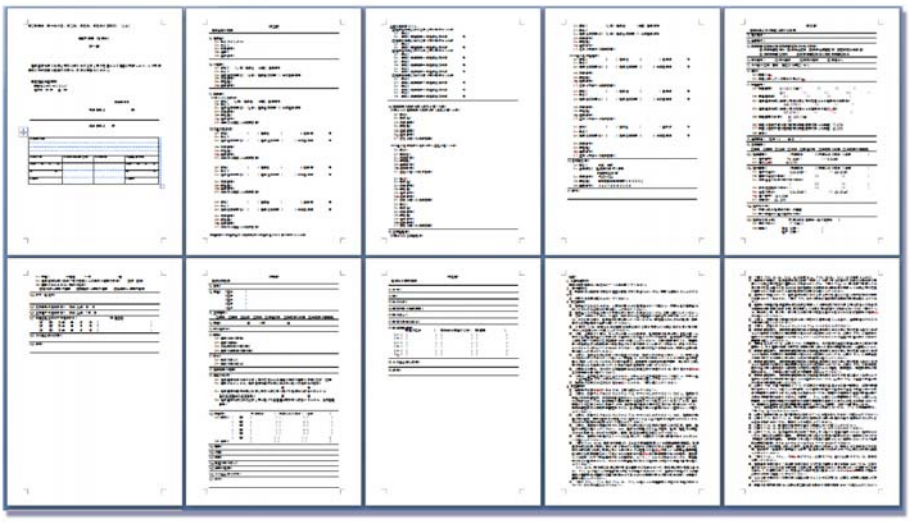


作成後



サンプル書類: 国土交通大臣指法人ハウスプラスの提供する申請用書類に基本的なキーワード置換を設定したサンプル書類を初期設定で提供しております。
もちろん利用企業様独自の書類追加、連動設定も可能です。
追加作業などのお手伝いは、木建市場までお問い合わせください。





4.複雑な形状の雨どいの作成への対応

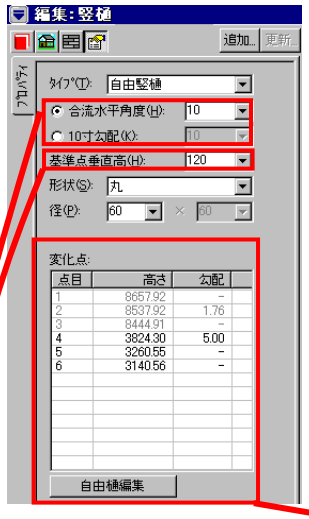
従来のような全自動の樋とは異なり、手作業による入力と編集が可能な樋・バルコニードレインを追加できます。

ただし、変化させる方向は一定であり、任意の方向へ変化させることはできません。

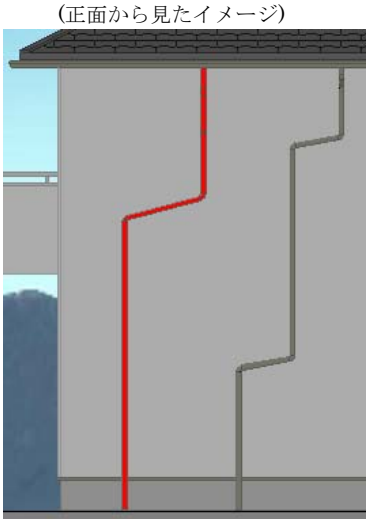
4-1.手動編集可能な樋の追加

変化点のリスト及び自由樋編集ボタンは、編集時に表示します。

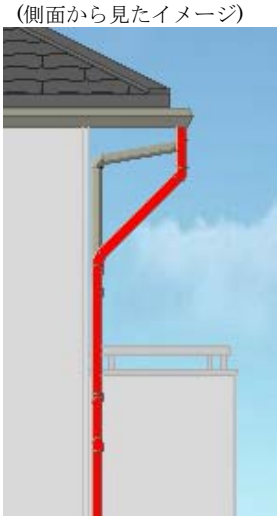
(自由竪樋のプロパティ画面)



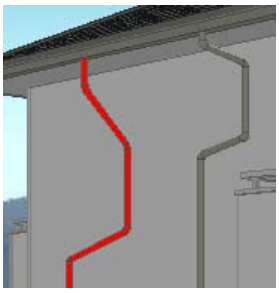
(正面から見たイメージ)

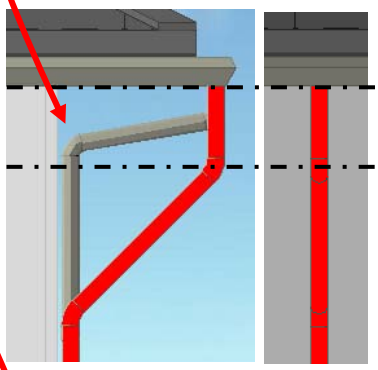


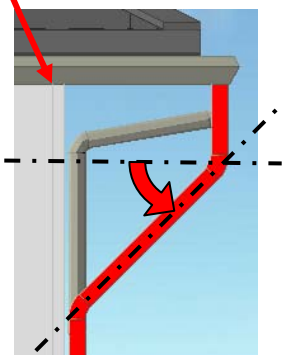
(側面から見たイメージ)

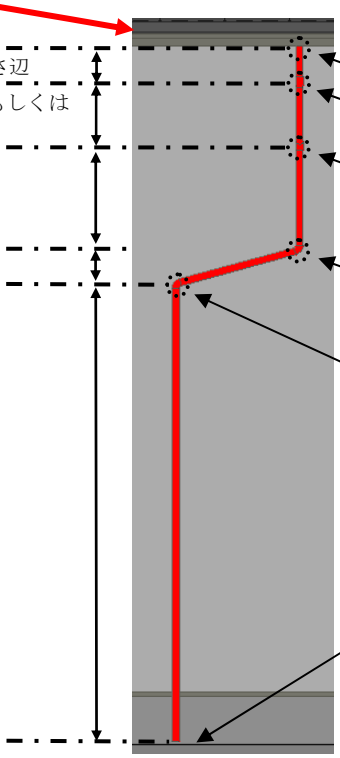


(右下から見たイメージ)



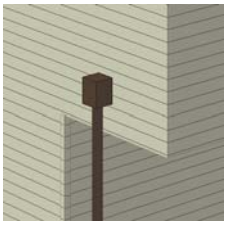




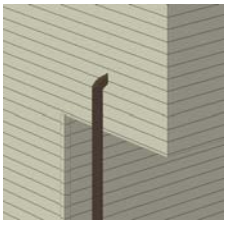


バルコニードレイン

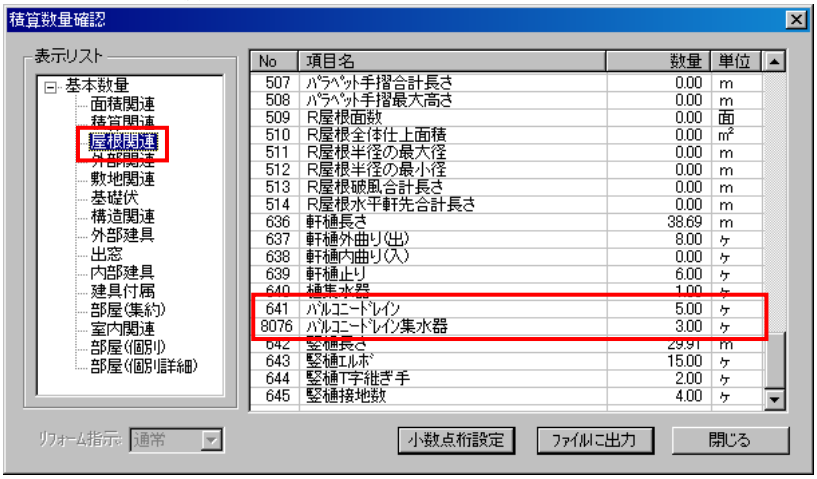
（バルコニードレイン集水器有り）



（バルコニードレイン集水器無し）

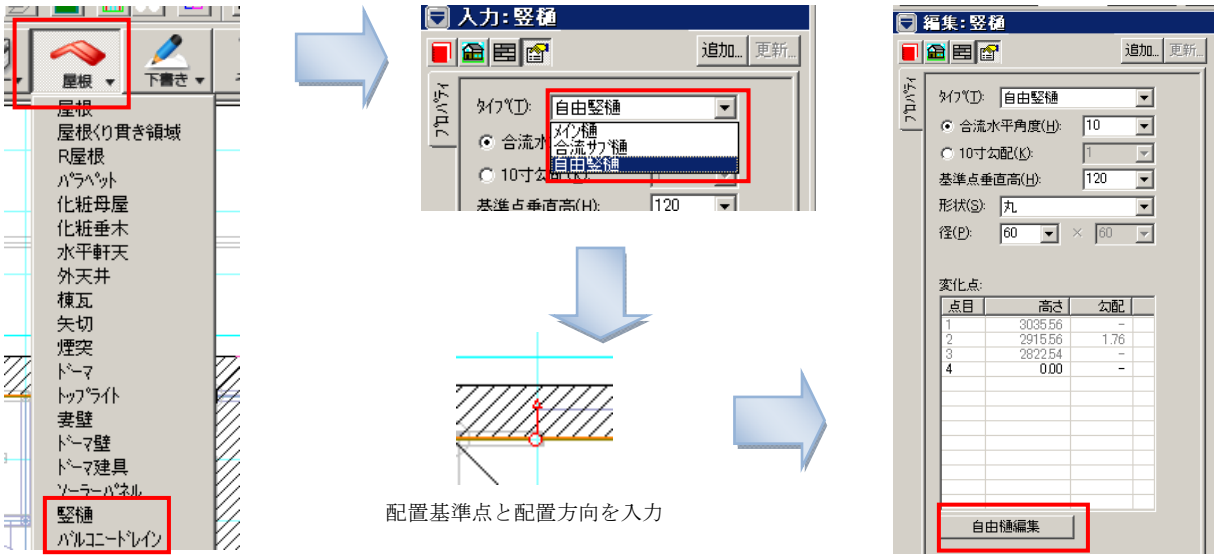


（積算数量確認画面イメージ）



樋の入力・編集方法

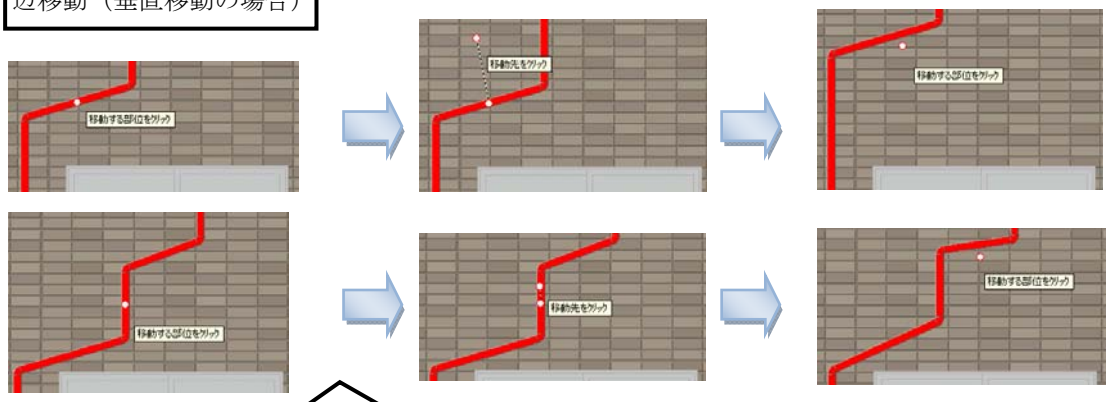
屋根大アイコンをクリックします。次に竪樋（または、バルコニードレイン）メニューをクリックします。プロパティのタイプで「自由竪樋」を選択し、配置基準点と配置方向を入力します。立面もしくはパース表示に切り替え入力後の自由樋を選択し、プロパティ欄の自由樋編集ボタンをクリックします。マウスを使い各種編集を行います。



各種編集

点移動（垂直移動のみ）

辺移動（垂直移動の場合）



変化点もしくは傾斜部位の編集は、上下移動のみとなります。
垂直部位の編集は、上下移動もしくは水平移動となります。

辺移動（水平移動の場合）

変化点追加（垂直部位のみ）

Ctrl を押したまま
2 点目をクリックする

変化点を追加した場合、２点目で指示した位置が新たに発生する垂直部位の上端になります。
尚、接続部分の傾斜角はプロパティ欄の合流水平角度もしくは１０寸勾配となります。

変化点削除（集水口から数えて３つ目以降の変化点のみ）

変化点:

点目	高さ	勾配
1	5765.00	-
2	5645.00	0.44
3	5631.47	-
4	0.00	-

高さを編集できない変化点は、値を灰色表示します。

高さを編集できる変化点は、値を黒色表示します。

4-2.プレゼンボード・設計図書への出力

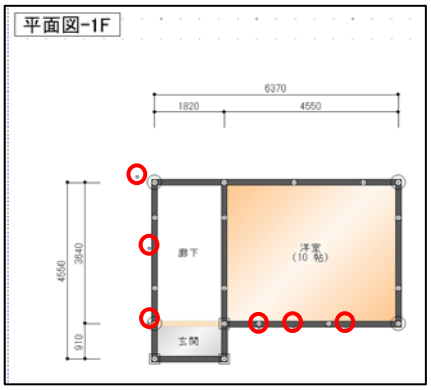
プレゼンボード出力では、配置図にも地上１階のメイン樋もしくは自由竪樋（または、縦落ドレインもしくは自由ドレイン）の落し口を描画します。

尚、ドレイン縦管位置で落し口を変化させている縦落ドレインがあれば、ドレイン縦管位置に落し口を描画します。

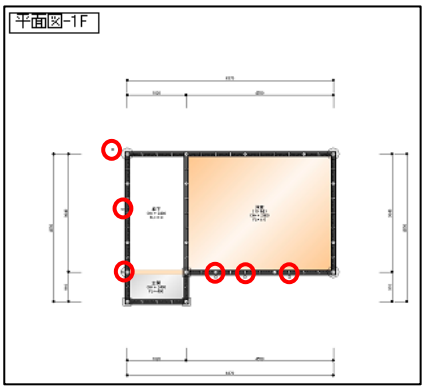
また、バルコニー床で止まるメイン樋または自由竪樋は、バルコニーの入力されている層に落し口を描画します。

ただし、下層の軒樋や他の竪樋、ドレインに合流する場合は、落し口の描画を致しません。

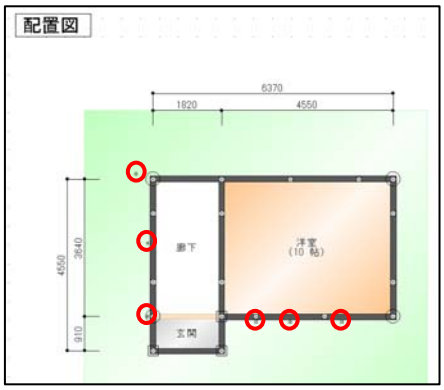
(平面出力イメージ)



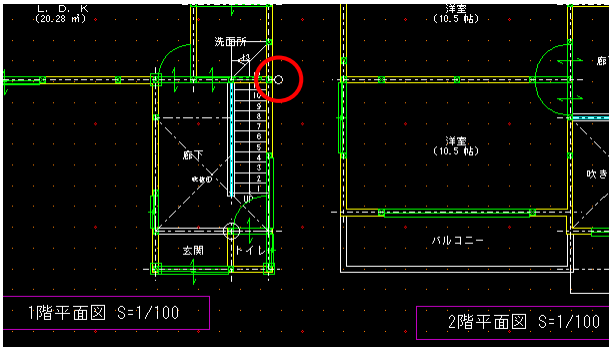
(平面詳細出力イメージ)



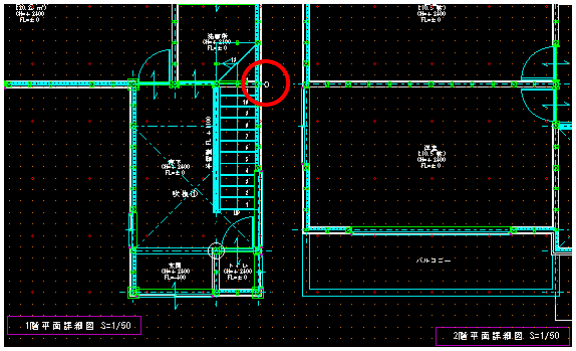
(配置図出力イメージ)



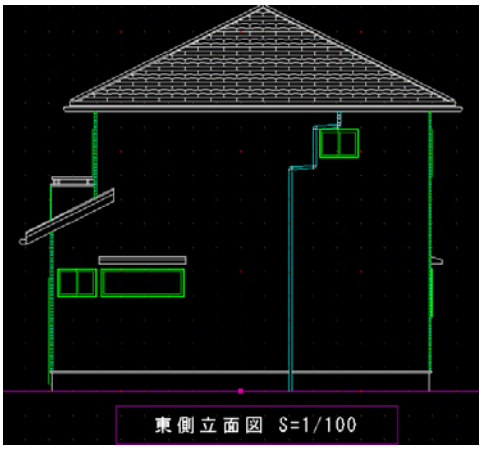
(設計図書出力イメージ)



(平面詳細図出力イメージ)



(立面図出力イメージ)



５.Walk in home１１後期版からの対応項目

５-１エクスポート

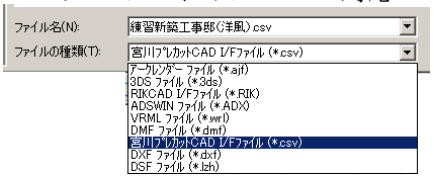
旧バージョンの Walk in home と併用で新バージョンを利用の方は、DTX でデータ受け渡しを行うことで、全てのバージョンでご利用頂けます。(標準搭載)

※下図の 1、3～10 は「データエクスポートオプション」、11 は「CEDXM オプション」の購入で選択可能となります。

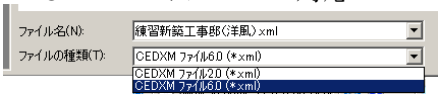
本機能は、下記の各種ファイル形式にて建物モデルをエクスポートすることができます。

	ﾌｧｲﾙ種類	拡張子	ﾌｧｲﾙ形式
1	ＤＸＦ	*.dxf	３ＤのＤＸＦ形式
2	ＤＴＸ ・Ver.4.0 ・Ver.5.0 ・Ver.6.0 ・Ver.7.0 ・Ver.7.1 ・Ver.8.0	*.dtx	オブジェクト形式で建物モデルを出力するもので、プレカットなど他社ＣＡＤ側で必要なデータを取り込めるように考えられた共有ファイル形式（テキストベース）
3	ＤＳＦ	*.lzh	DTX＋平面 BMP+BMP 位置情報 XML をまとめて圧縮した形式
4	宮川ﾌﾟﾚｶｯﾄ ＣＡＤ I/F	*.csv	宮川工機のプレカットＣＡＤへデータを渡すためのＣＳＶファイル形式
5	ｱｰｸﾚﾝﾀﾞｰ	*.ajf	テクスチャ情報を併せ持つＣＧ専用の形式
6	VRML	*.wrl	ウェブ上で３次元グラフィックスを表現する形式
7	ＤＭＦ	*.dmf	ＤＴＳモデルフォーマット（独自ファイル形式）
8	3DS	*.3ds	他社ＣＧソフトなどで利用することができる形式
9	RIKCAD I/F	*.RIK	外構ＣＡＤのＲＩＫＣＡＤへのインターフェースファイル形式
10	ADSWIN	*.ADX	生活産業社の天空率算出ソフト ADSWIN 用の概略建物モデル形式
11	CEDXM	*.xml	「建築設計ＣＡＤ」と「プレカットＣＡＤ」の連携に対応した XML 形式

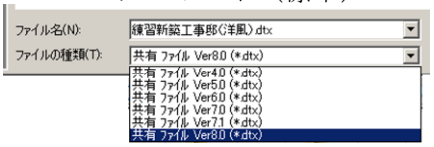
エクスポートオプション対応



CEDXM オプション対応

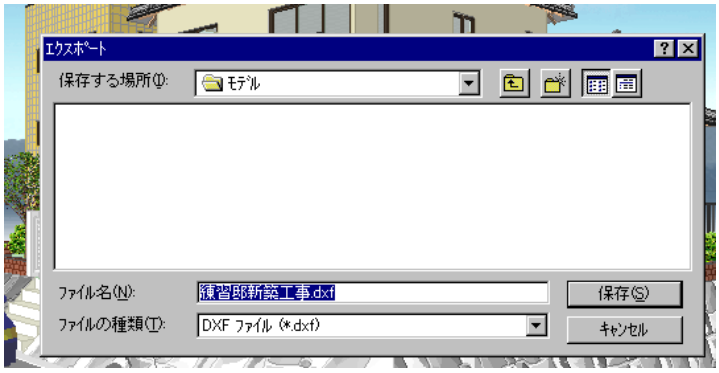


DTX エクスポート（標準）

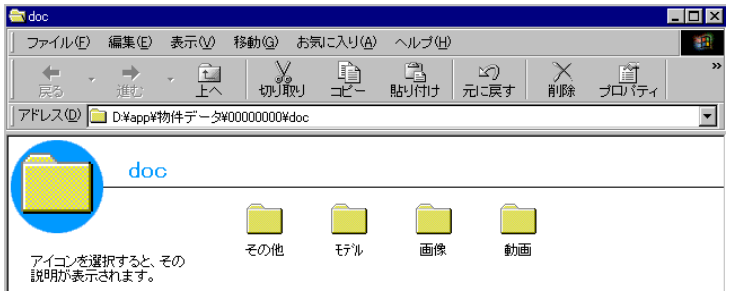


５-１-１　ＤＸＦ形式[オプション]

敷地を含めた建物モデルを３次元ＤＸＦ形式で出力することができます。
自分の物件ディレクトリー内に物件名称.dxf の形で登録されるため、必要ならファイル名を修正して保存ボタンを押します。
作成指示画面が消えると処理は完了です。

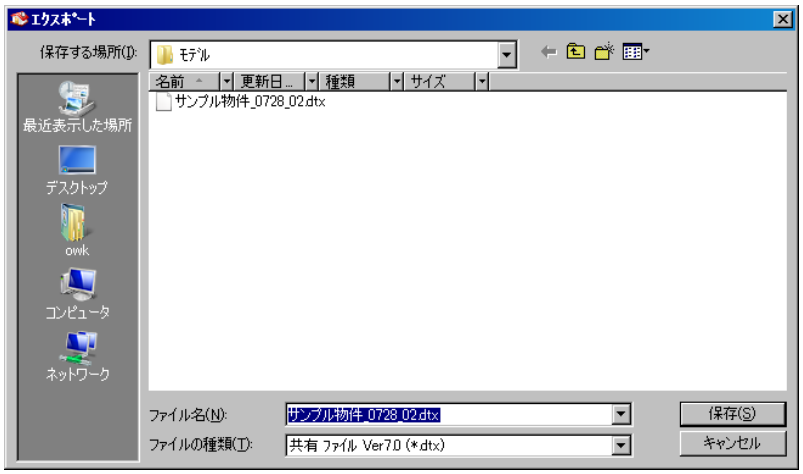


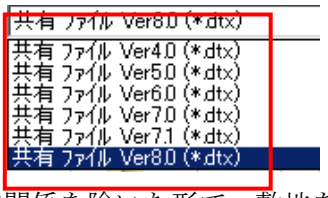
（参考）この後Ｆ９キーを押すと、自物件のディレクトリーを覗くことができます。
他社ＣＧソフトなどでこのファイルを取り込むなどの活用をしてください。
※DXF で保存されたデータには、植栽などの点景要素、前景、背景、テクスチャ素材は除かれた形でファイルが作成されます。また画像の保存は画面表示中の画像を対象に各種ファイルを作成しますが、このエクスポートは建物モデルそのものを対象にしているため、表示画面とは無関係に作成が行われます。



（例）エクスポート後、インフォマティクス社の Piranesi を活用した例

５－１－２共有ファイルＤＴＸ形式[非オプション]





旧タイプの Walk in home データの作成オブジェクト形式で構造関係を除いた形で、敷地を含めた建物意匠モデルを出力できます。

プレカットなど他社ＣＡＤ側で必要なデータを取り込めるように考えられた共有ファイル形式（テキストベース）となっています。

対応内容は以下の表を参考にしてください。

Ver4.0、Ver5.0 、Ver6.0 、Ver7.0、Ver7.1、Ver8.0 の 6 つから選択可能です。

Walk in home Ver.	Rel.	エクスポート対応 DTX Ver.	インポート対応 DTX 4.0	DTX 5.0	DTX 6.0	DTX 7.0	DTX 7.1	DTX 8.0
Walk in home X		4.00	○	×	×	×	×	×
Walk in home X 2		4.00	○	×	×	×	×	×
Walk in home X 3		5.00	○	○	×	×	×	×
Walk in home 1 0		6.00	○	○	○	×	×	×
Walk in home X I	～ 1.04	7.00	○	○	○	○	×	×
	1.10 ～	7.10	○	○	○	○	○	×
Walk in home 1 2		8.00	○	○	○	○	○	○

５－２　見取り図の設定拡張

・拡張前

取込を行った見取図は印刷対象ではなかったため、取込見取図を印刷することは出来ませんでした。

・拡張後

取込を行った見取図の印刷、プレゼンボード出力の対象とする事が出来るようになりました。
また、平面図表示時には見取図をフィット対象として表示を行います。

設定方法：建物共通情報の「平面関係」タブにある「平面での外部フィットに見取図を含む」にチェックを入れる事で取込見取図を平面表示でのフィット対象とするとともに印刷及びプレゼンボードに出力が可能となります。

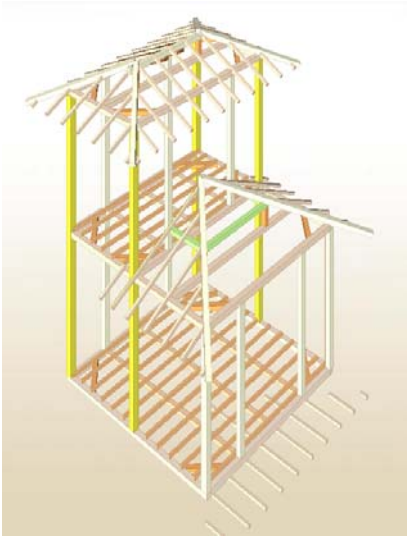
インターネットの地図と組み合わせると下図のようになります。

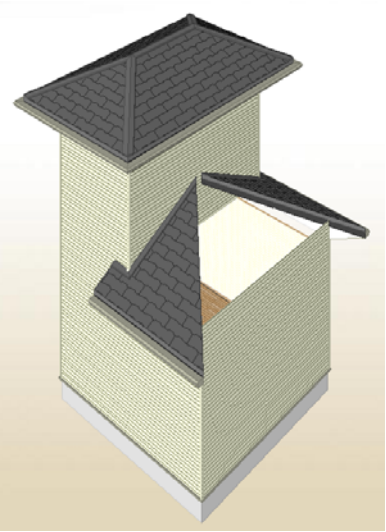
（ただし、画像サイズが大きくなるので注意が必要です。）

５－３　垂木のパース表示不具合の修正

・修正前

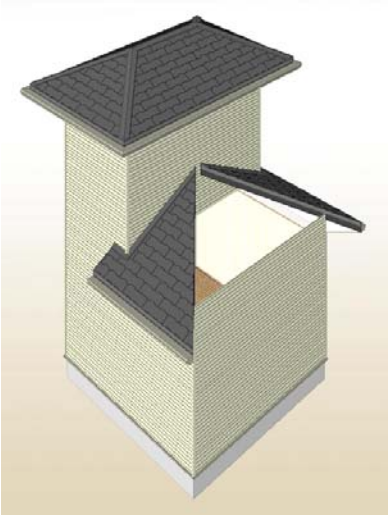
垂木の設置されている屋根について、該当する屋根を削除した場合に垂木のパース表示位置がGL 高さになる不具合が発生しておりました。





・修正後

屋根のない場所に設置されている垂木について、入力されている階層の軒高を基準に表示するように修正致しました。



また、登り梁にある以下の設定項目を垂木についても追加致しました。

- 入力基準
- 基準点高（基準高から変更）
- 勾配

入力基準を「基準高指定」に変更した垂木については、屋根の有無に関係なく設定された基準点高・勾配で表示するように機能を拡張致しました。

５－４）金物要素の拡張

５-４-１拡張金物の入力

・拡張前

接合部金物の仕様は、柱要素で保持しておりました。

・拡張後

柱要素に持っている接合部仕様を廃止し、金物要素のタイプに拡張金物(胴差しと通し柱の接合部金物、横架材の接合部金物)を追加致しました。既存金物と同様に、ツールバー「金物」ボタンを押下後、表示される金物プロパティ画面に新設されるタイプコンボで金物タイプを選択します。(初期状態の金物タイプは、柱頭・柱脚金物)

既存金物の入力と同様のオペレーション（フリー配置）とします。

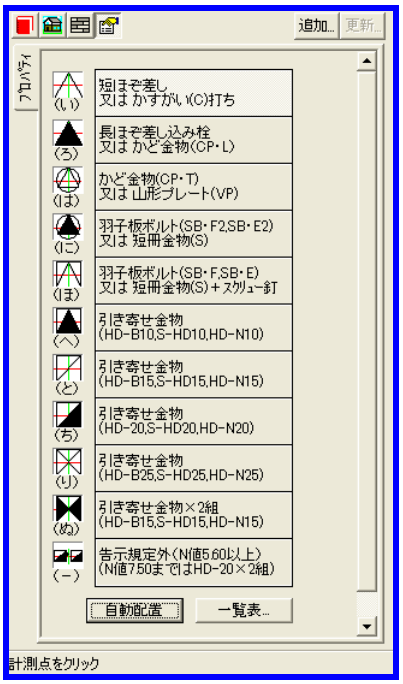
（※2 点入力 ＝ 計測点 ＋ 表示位置）

表示用金物シンボル図形は外部データ（MASTER¥金物ｼﾝﾎﾞﾙ¥????.dxf）を読み込んで表示を行います。

5-4-2金物プロパティ画面の拡張

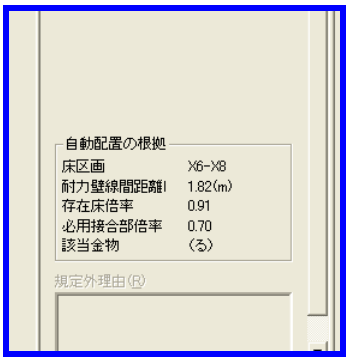
・拡張前

金物タイプの設定項目がない為、接合部金物の入力機能がありませんでした。



・拡張後

金物にタイプを追加し、各種接合部金物の入力ができるように拡張致しました。

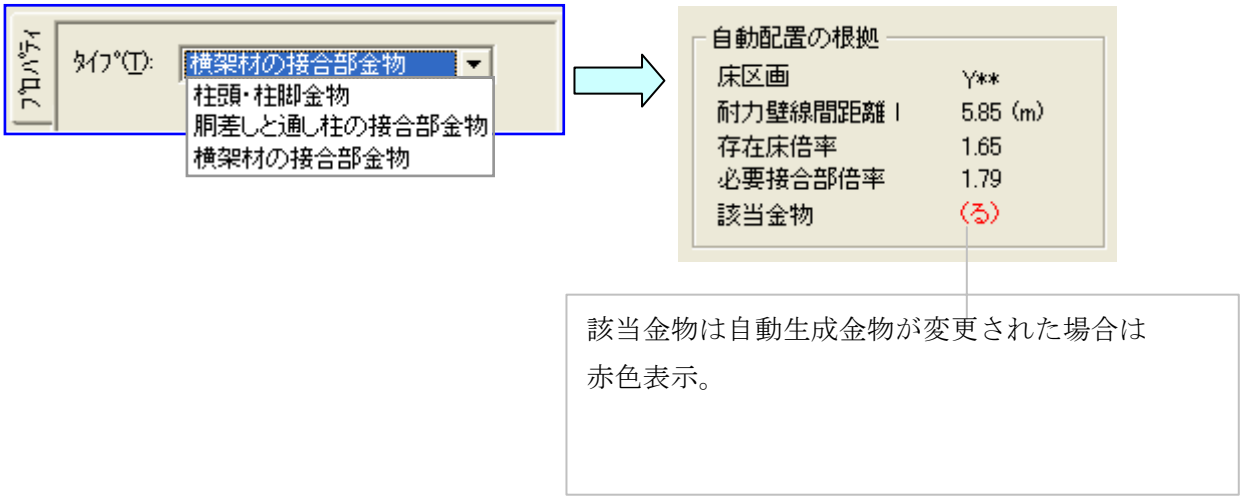


1）自動配置の根拠の追加

タイプ「横架材の接合部金物」を選択したときのみ表示します。

（その他のタイプの場合には、根拠全体を非表示）

手動入力の場合には根拠のタイトルは表示、該当金物以外の項目値を非表示とします。



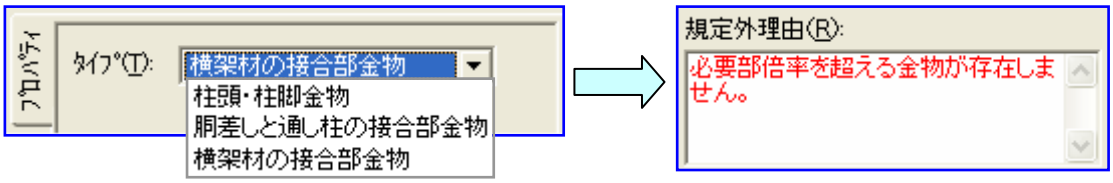
表示項目	内容
床区画	通り芯（◎または○の付いている箇所の通り芯、X1-X3, X1-X**, X**-X3 等）
耐力壁線間距離 l	自動配置される金物のチェック床区画の耐力壁線間距離 l
存在床倍率	自動配置される金物のチェック床区画の火打構面なしの状態での床倍率
必要接合部倍率	（耐力壁線間距離 l ×存在床倍率×0.185）＜0.7＝0.7
該当金物記号	記号（いろは…）

2）規定外理由の追加

横架材接合部の自動生成で設定される規定外理由を赤色文字で表示します。

[横架材の接合部金物、規定外、自動入力]の場合のみ表示します。

編集は出来ません。



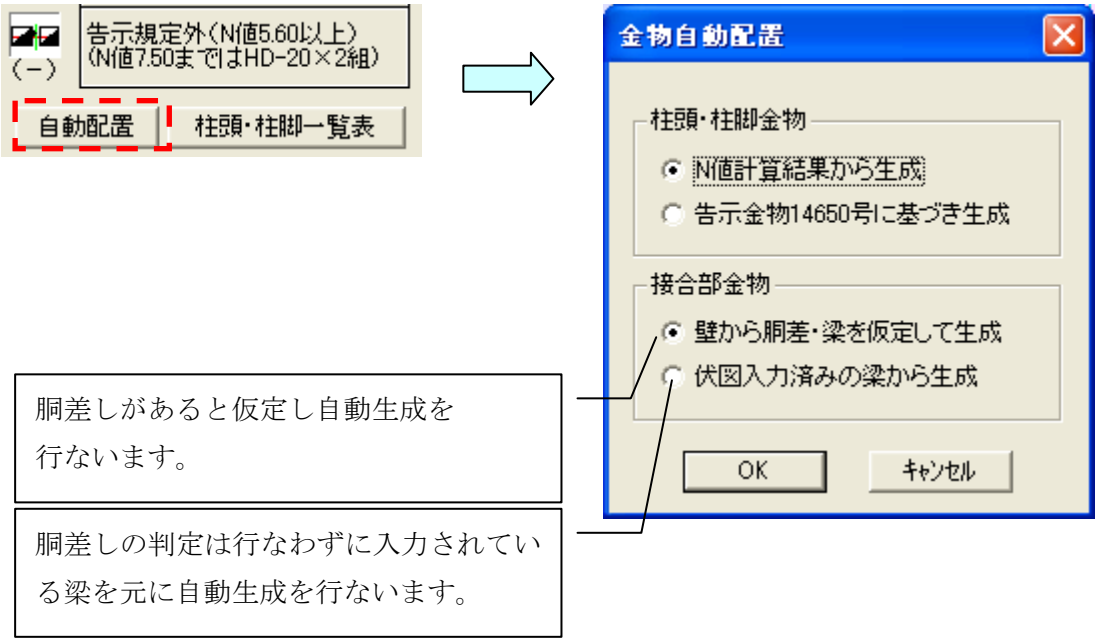
5-4-3 金物自動生成の拡張

・拡張前

金物自動生成では、接合部金物が金物要素として存在しない為、柱頭・柱脚金物の自動生成方法のみ設定する仕様となっておりました。

・拡張前

既存の金物自動生成を拡張し、拡張金物（胴差しと通し柱の接合部金物、横架材の接合部金物）の自動生成を行うように拡張致しました。



自動生成の順序

1、全入力済みの金物の削除
2、柱頭・柱脚金物
3、胴差しと通し柱接合部の金物
4、横架材接合部金物

5-5　新規要素「仮火打」の追加

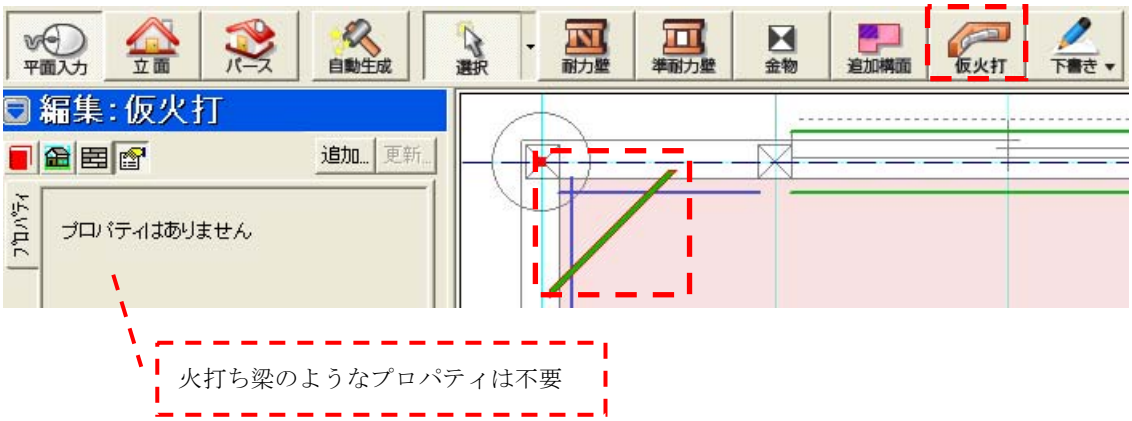
・拡張前

火打構面を確認するには火打を入力する必要があり、火打の入力は伏図が入力されている前提となっておりました。その為、火打構面の倍率を簡易的に確認する方法がありませんでした。

・拡張後

新規要素として「仮火打」を追加致しました。

5-5-1 入力方法



入力方法・入力レイヤ

入力レイヤ	入力方法
構造の安定	２点入力（基準点・設置方向）

構造の安定レイヤ内の任意の位置(柱の有無は問わない)に入力可能とします。
火打と同じ場所に入力されている場合は、サイズを小さく表示します。
設計図書出力の水平構面伏図に出力します。

5-5-2 性能表示情報の拡張

火打がない場合に限り、火打本数を仮火打の本数として１本あたり負担面積を算出します。
火打・仮火打が両方入力されている場合、仮火打は除外して本数を計算します。

仮火打の本数で計算した場合：

実入力火打本数　⇒　入力仮火打本数

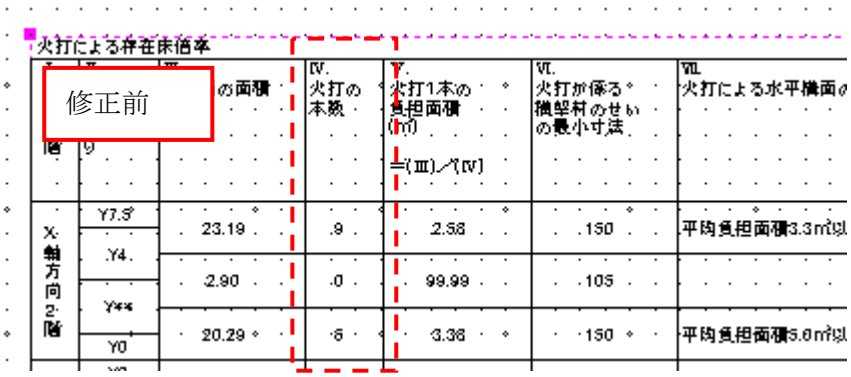
１本あたり負担面積　⇒　１本あたり負担面積

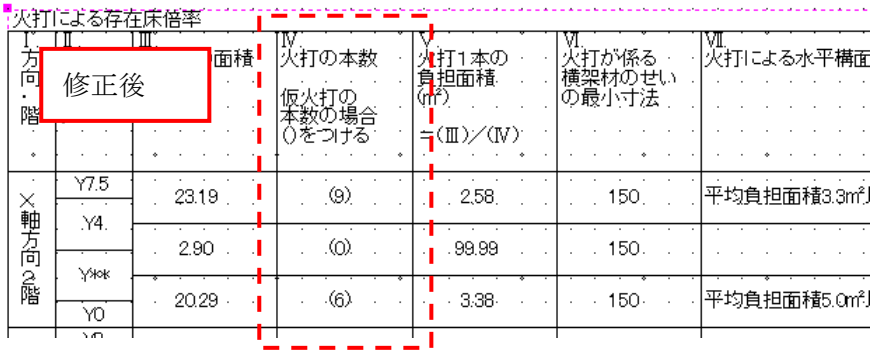
火打構面の倍率　⇒　火打構面の倍率

５-５-３性能ﾁｪｯｸｼｰﾄの拡張[ｵﾌﾟｼｮﾝ]

「火打による存在床倍率」内の「火打の本数」の表記を変更します。

火打本数を仮火打の本数としている物件での出力の場合、数値に()をつけて出力します。



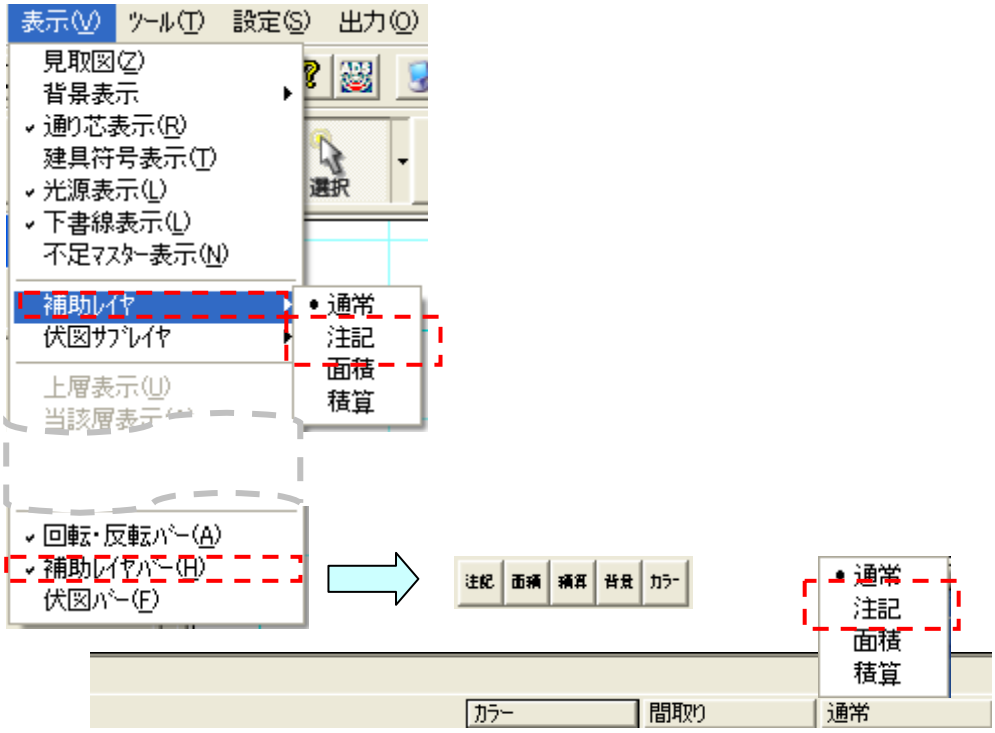


6 その他便利な追加機能

6 - 1 注釈や補助的な要素を入力しておく「注記レイヤ」が新設

①注記レイヤの追加

平面図に書き込んだ注記を簡単に表示/非表示できる専用のレイヤを追加しました。
名称を「注記レイヤ」とし、入力するためのモードを「注記書込みモード」とします。
注記レイヤへの切り替えは「表示(V)」メニューとステータスバーから行なうことが出来ます。
「補助レイヤバー(H)」の項目を押すと補助レイヤバーが表示/非表示の間で切り替わります。



②補助レイヤバーの追加

ツールバー「補助レイヤバー」により、以下の機能を提供します。

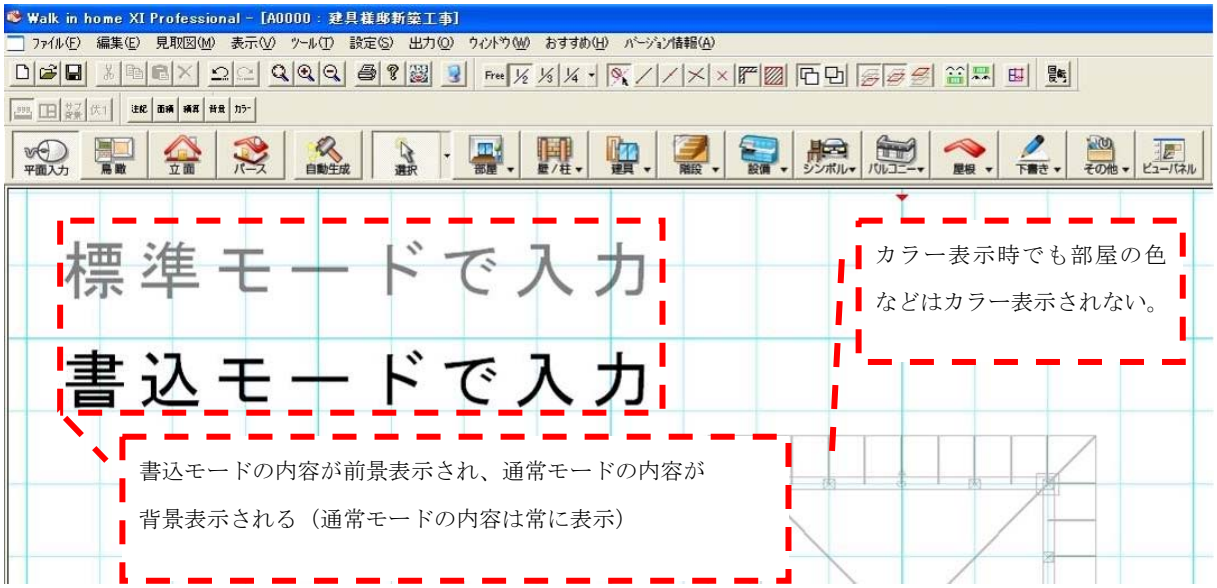
- 注記書込みモード と通常図面入力の切り替え
- 注記レイヤ の背景表示
- 注記レイヤ 通常図面の同時カラー表示

1）「注記書込み」ボタン

注記レイヤの場合、書き込んだ注記を前景表示すると同時に、

元の通常図面の内容が背景で灰色表示されます。

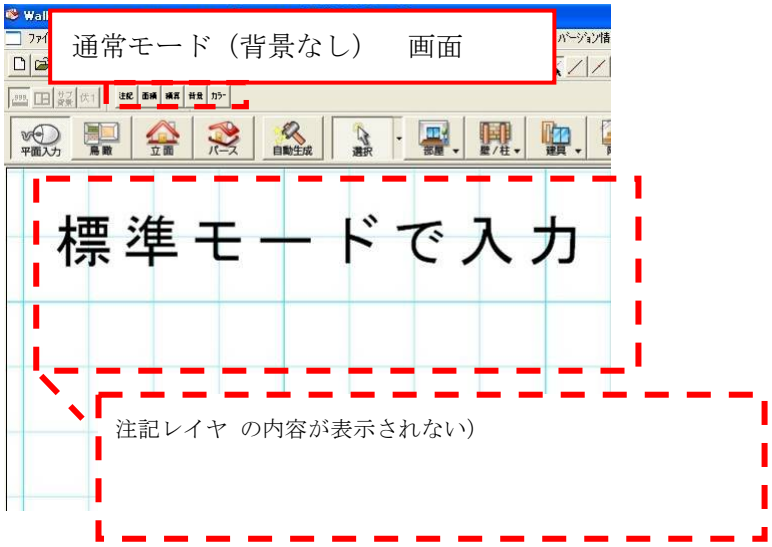
「書込み背景」ボタンと「書込みカラー」ボタンの状態が無視されます。

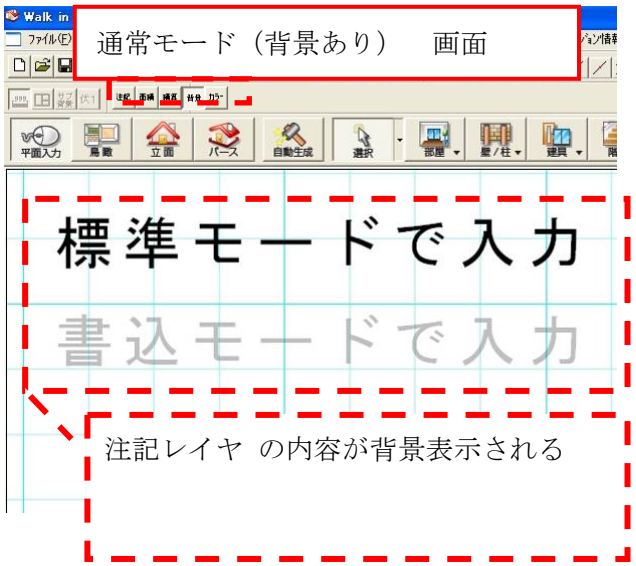


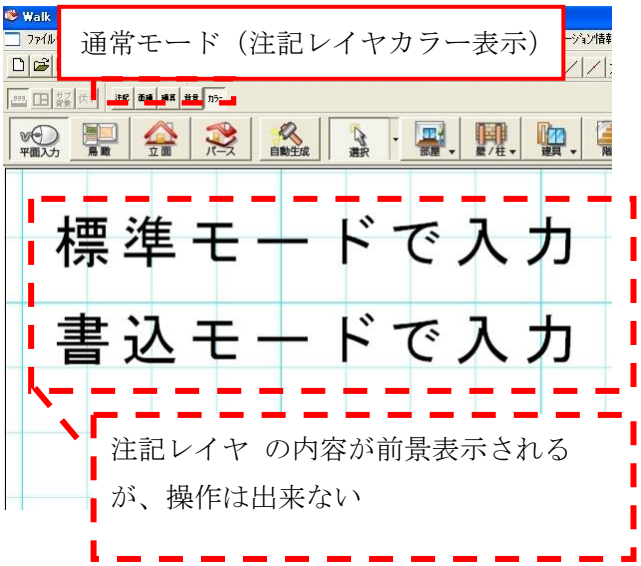
2）「書込み背景」ボタンと「書込みカラー」ボタン

注記レイヤ以外の場合、「書込み背景」ボタンが押下されていれば、元の図面の内容はそのまま、注記レイヤ の内容を背景で追加表示される。

「書込みカラー」ボタンが押下されていれば、元の図面の内容と 注記レイヤ の内容両方が前景で表示されます。







３）対象要素

「注記レイヤ」に登録出来るのは以下の要素となります。

点、線、円、円弧、矩形、図面シンボル、ユーザー定義線、寸法線、
引出線、文字、ハッチング領域、メモ

４）対象となる画面

「注記レイヤ」は下の表に記載される画面にのみ提供します。
操作によって「注記レイヤ」が非サポートの画面に遷移する場合、
注記書込みモード を解除します。

書込みレイヤのサポート画面

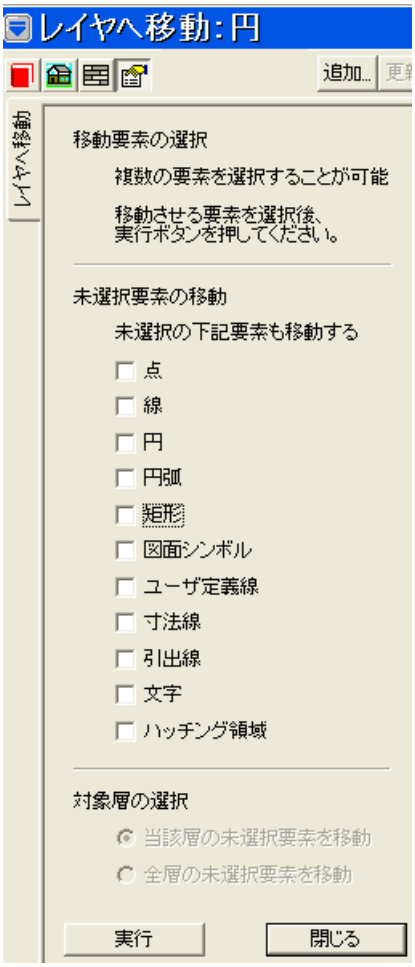
画面		書込みレイヤサポート
平面入力	基礎	×
	間取り（敷地含む）	○ 平面図などに各種記載
	屋根	○
	屋根生成補助	×
	天井	○
	面積要素	×
	展開指示	×
	構造チェック(木造軸組)	×
	構造の安定(木造軸組)	×
	採光チェック	×
	基礎伏	○ 金物の記載をする場合あり
	伏図	○
	給排水・ガス	○
	電気	○
	換気	○
立面	デザイン	×
	図面注記	○ 立面図に小屋裏換気部材の記載

③注記一括移動機能の追加

「通常レイヤ」と「注記レイヤ」を一括で移動できるように拡張致しました。

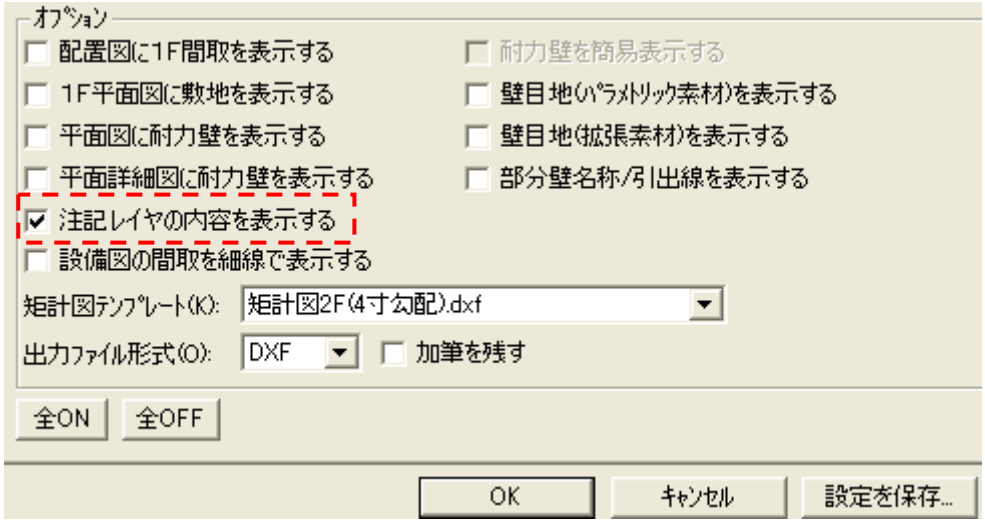
「注記レイヤ」に登録出来るすべての要素が対象ですが、メモは除きます。

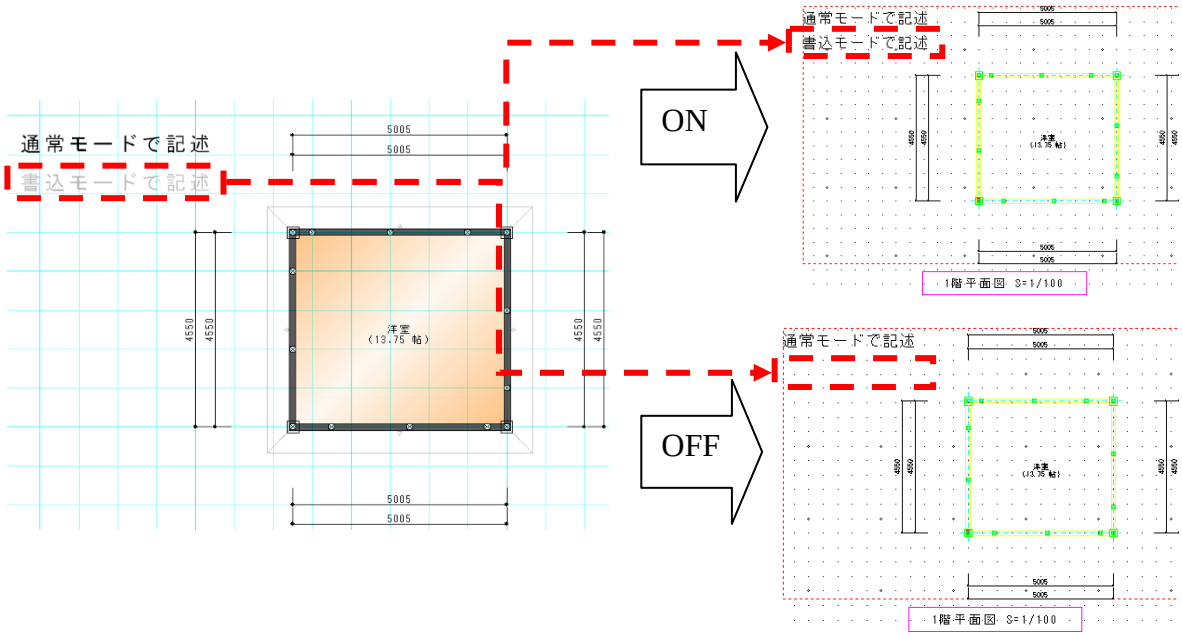
複数選択モードで選択した要素以外に、要素一括移動用の画面にて指定された複数の種別の要素も移動対象になる。要素を指定する場合、階層の指定も選択できる。



④注記レイヤに入力した要素の設計図書出力オプションを追加

「注記レイヤ」の内容を設計図書に出力できるように拡張致しました。

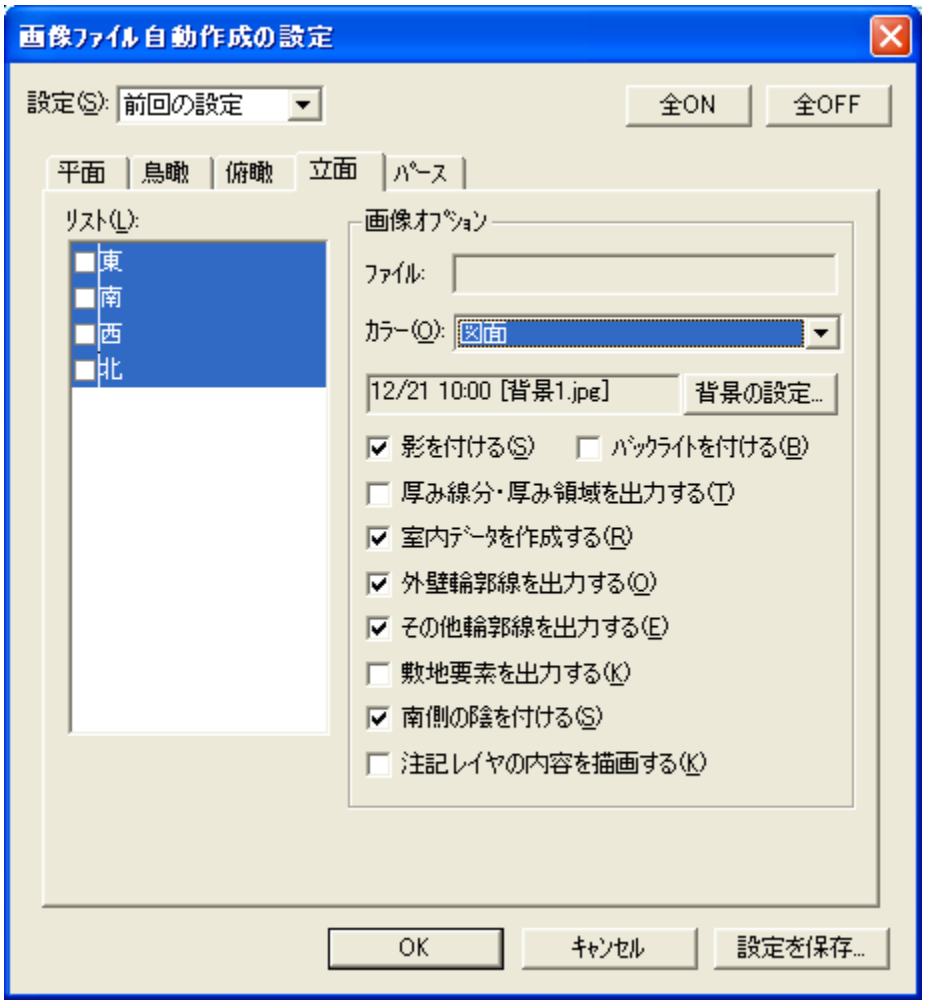




⑤注記レイヤに入力した要素のプレゼンボード出力オプションを追加

「注記レイヤ」の内容をプレゼンボードに出力できるようにオプションを追加致しました。プレゼンボード出力ダイアログの「平面」タブと「立面」タブに、注記レイヤ出力のオプションを追加します。「立面」タブに追加されるオプションは、カラーが「図面」と設定された立面図のみ利用可能となります。

「下書き線を最上位で描画(U)」のオプションが ON の場合、「注記レイヤ」の内容も最上位で描画します。



6-2 オプション機能 Excel To Dxf（長期優良住宅対応）の機能拡張

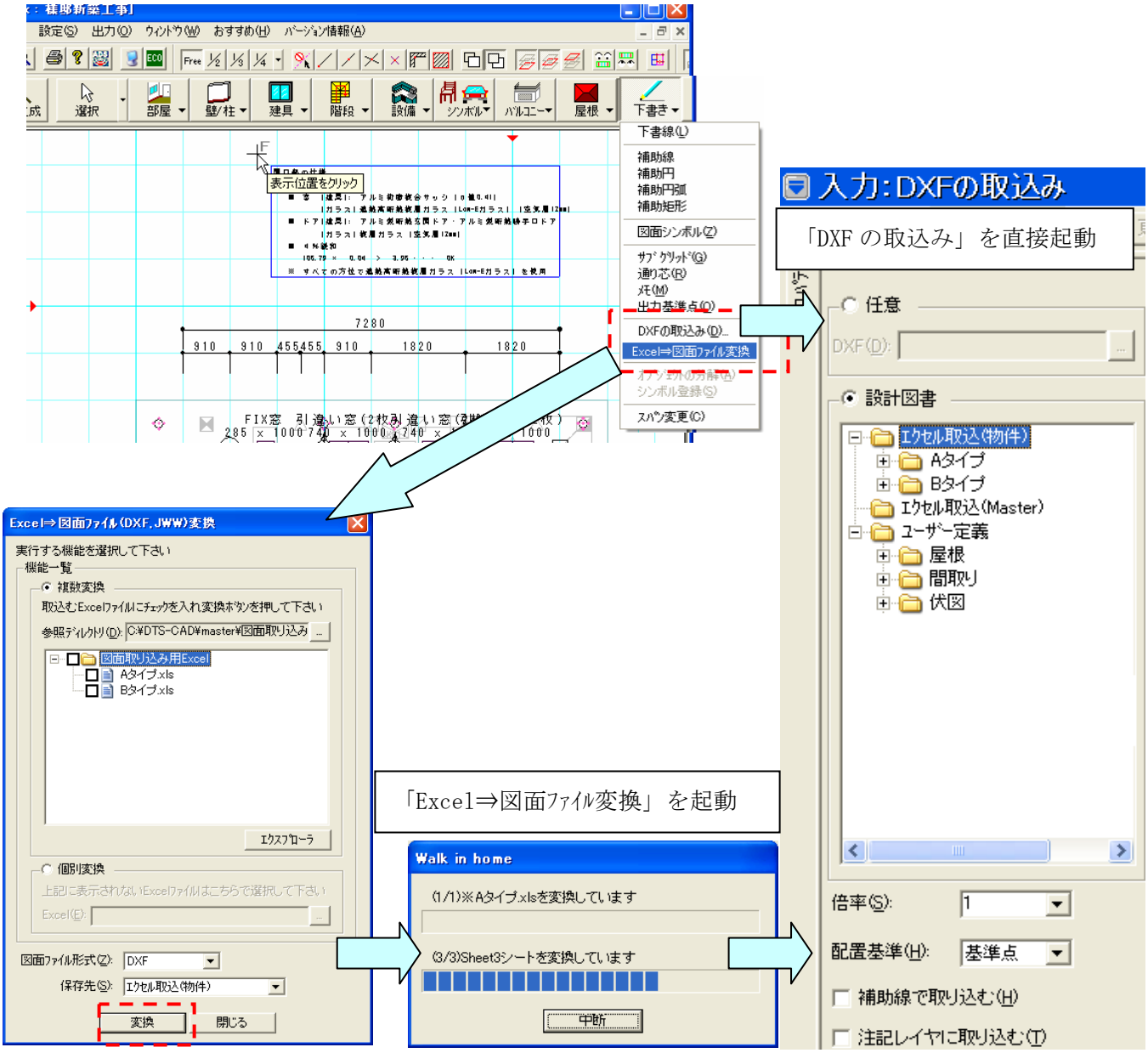
設計図書に Exce データを図面ﾌｧｲﾙ変換できるオプションの機能が拡張しました。

①Excel⇒図面ﾌｧｲﾙ変換機能を、１枚から複数のファイルに対して同時に行えるよう拡張

Excel⇒図面ファイル変換ダイアログを改善し、複数のファイル変換にも対応致しました。

②設計図書画面の他通常 CAD 機能に Excel⇒図面ﾌｧｲﾙ変換機能を追加

CAD 側でも同様の機能が利用できるように追加致しました。



6-3斜線チェック・延焼範囲　平面表記を追加

・拡張前

北側斜線・道路斜線のチェック機能、3m5m の延焼範囲の入力機能がありませんでした。

・拡張後

①北側斜線・道路斜線のチェック寸法線

北側斜線・道路斜線のチェック寸法線を入力する機能を追加します。

【道路斜線チェック寸法】三点入力で指定します。

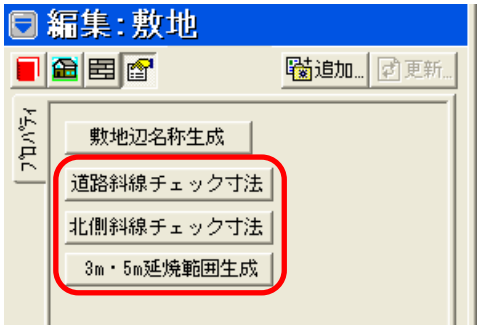
（一点目:道路斜線の指定、二点目：屋根領域点の指定、三点目：寸法離れ位置を指定）

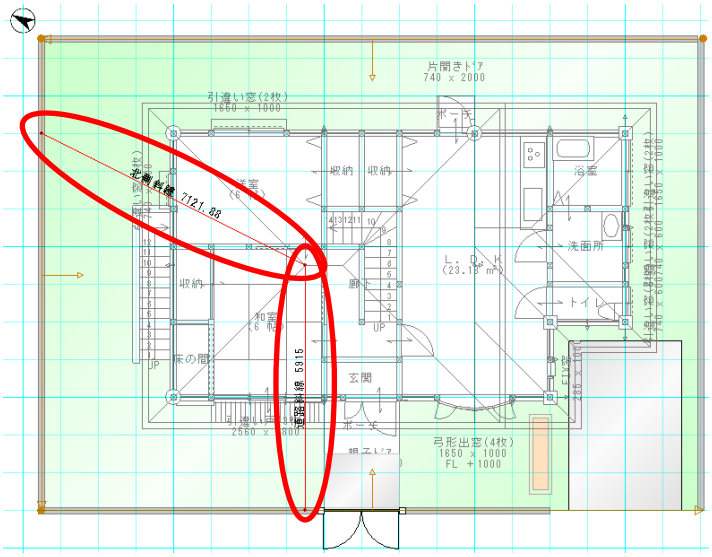
【北側斜線チェック寸法】二点入力で指定します。

（一点目：屋根領域点の指定、二点目：寸法離れ位置を指定）

チェック寸法の入力中は屋根領域ラインを黒色の実線表示にします。

屋根領域点の指定は樋先も指定可能にします。





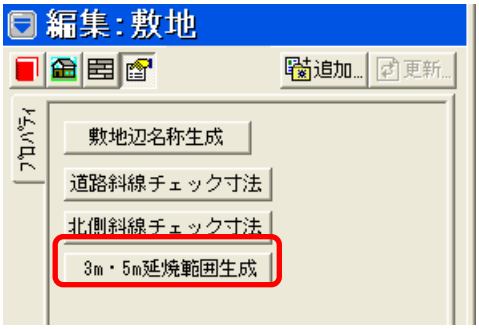
②3m5m 延焼範囲ハッチング

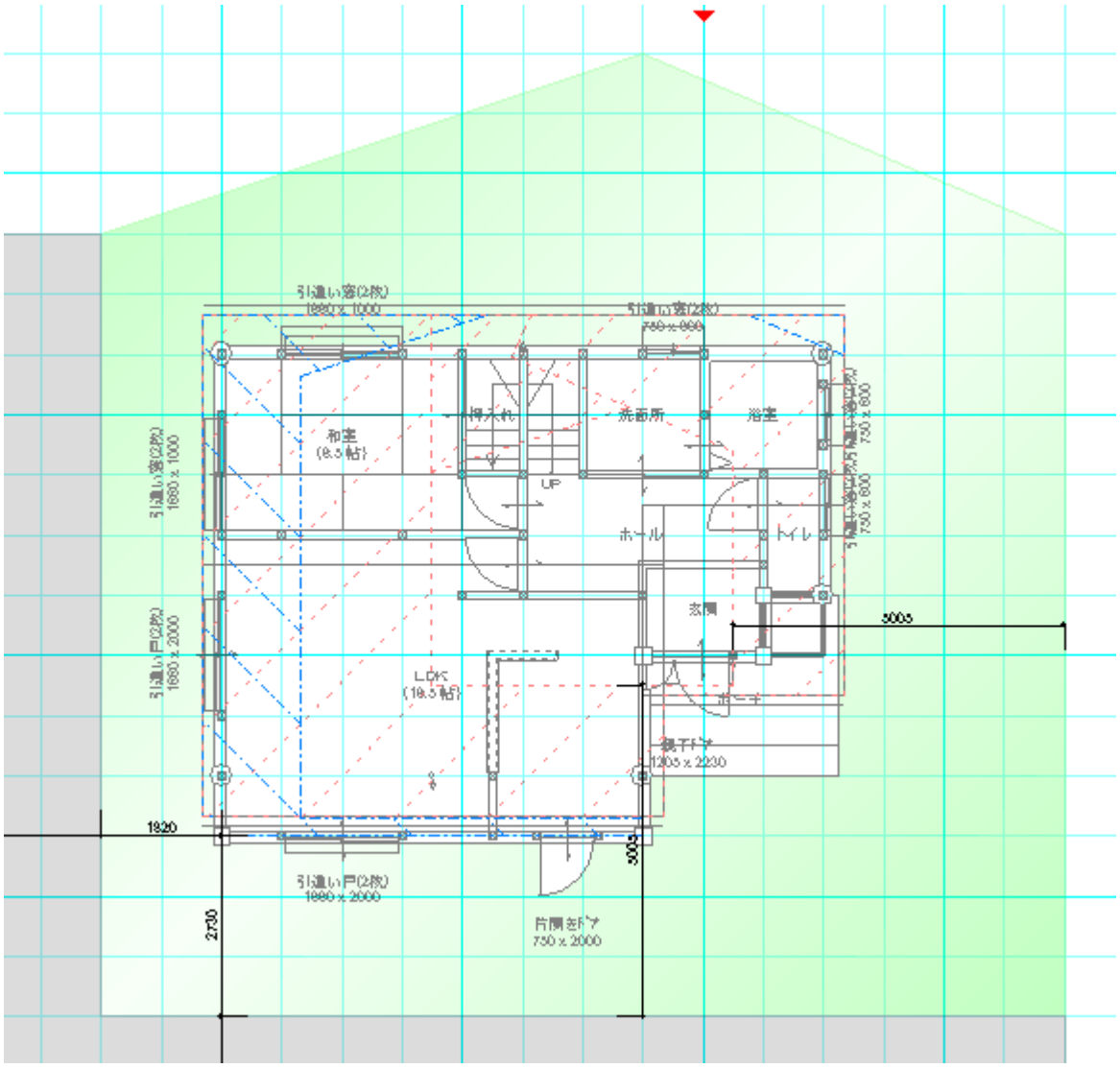
3m5m の延焼範囲にハッチング領域要素を生成するコマンドを追加します。

準防火、防火地域で気になる敷地辺から 3m・5m の距離と建物が重なる部分に、延焼範囲を表すハッチング要素を自動生成します。

以前に自動生成されたハッチング要素を削除した後に自動生成を行ないます。

手動入力されたハッチング要素は削除されません。





３ｍの範囲が青　５ｍの範囲が赤で表示されます。

Walk in home NEXT 12
Version Twelve

株式会社 木建市場

サポートメール. support@mokken.com

サポートサイト. http://www.mokken.com/users/support